Learning-shop『時光』サイト　第 1 回報告書

【2005 年 10 月末～12 月末】

Learning-shop『時光』サイトコーディネーター　杉山　晋平　（作成）

要旨

本報告書は，2005 年 10 月末から札幌で開始された実践研究サイトである Learning-shop『時光』の実践記録に基づいて書かれたものである。本サイトの主な参加者は，中国から帰国した高校生と市内の大学生である。

ボランティア日本語教室を卒業していった高校生たちは，大学生と協力しながら，自分たちの居場所作りを維持していく。そして，そこに集うメンバーで取り組めるテーマ探しが始まり，「映画製作」というアイディアが出されるに至る。他方，そのような中，ある高校生メンバーが学校での学業的達成の困難に直面し，悩み始める姿を少しずつ見せていく。今回の報告では，まだ実践において交差していないが，本サイトに固有の学びの問題を孕みうる，この 2 つの過程を実践記録から報告する。

著作権

本報告書の著作権は，北海道大学大学院教育学研究科石黒研究室 KODOMO-Project に帰す。

連絡先

learning_shop_jikou@yahoo.co.jp

目次

0. はじめに
1. Learning-shop『時光』を開始するまでの経緯
   1.1. 団地集会所の非公式サイト
   1.2. Learning-shop としての再開
2. フィールドの概要
   2.1. M 団地集会所
   2.2. 参加メンバーの概要
3. Learning-shop『時光』サイトの活動内容の記録
   3.1. 10 月 21 日(金曜日)
   3.2. 10 月 30 日(日曜日)
   3.3. 11 月 20 日(日曜日)
   3.4. 11 月 27 日(日曜日)
   3.5. 12 月 4 日(日曜日)
   3.6. 12 月 11 日(日曜日)と 12 月 18 日(日曜日／時光忘年会)
4. 総括と議論
   4.1. 今タームの記録の中で重要なポイントは何であったのか？
   4.2. 研究としてどのような問題を立ち上げうるか？
   4.3. 研究と実践について今後の課題と具体的な青写真

0. はじめに

本報告書では，Learning-shop『時光』サイトが開始された 10 月末から 12 月末までのデータ記録について整理し，これまでの実践の動きを概観する。今回の報告では，サイトの組織化に着手してから 2 ヶ月を経た現段階で，今後の研究としてどのような枠組みを立てられうるか，また来年からの実践をどのように展開していくのかについて検討し，それを踏まえて今後の課題を整理することを目的とする。

1. Learning-shop『時光』を開始するまでの経緯

1.1. 団地集会所の非公式サイト[1]

本サイトの Learning-shop は，それまで大学生と中国から帰国した高校生の数名が集まって，非公式的に継続していたコミュニティに移植される形で開始された。そこで本節では，まず初めに Learning-shop が開始される以前から継続されてきたこの非公式的なコミュニティについて紹介する。

非公式サイトが開始されたのは，2005 年 5 月からである。それまで筆者は，市内の外国籍・帰国児童生徒の日本語及び教科学習を支援するボランティア団体が運営する日本語教室でフィールドリサーチを行っていた。2005 年 3 月には，それまで筆者が主な観察対象として設定し，ボランティアとしても関わりを維持してきた中学生たちが日本語教室を「卒業」していくこととなった。そこで筆者はボランティア団体の交流事業として「卒業お楽しみ会」を企画し，数名のボランティアと受験を終えた中学生とが協力しながらその準備を進めていった。

結果として，中学生たちがステージ発表に挑戦したり，自分の国の家庭料理のレシピを作って準備したりといったように，本人たちが企画実施に不可欠な役割をとるようになったこともあり，終了後にはそれまでの交流企画とは異なる充実感を皆が共有していたようだった。また，それまでの交流事業にみられたボランティア＝ホスト，子どもたち＝ゲストといった関係性にも変化が見られ，ボランティア団体としても子どもたちの「参加」の可能性を考えていく，子どもたちの「参加」の機会を作っていくことが大切ではないかと総括された。

「卒業お楽しみ会」終了後，中心的に準備を進めた卒業生たちとボランティアたちでささやかな打ち上げを行った。その帰り際に，筆者と HI さん，そして TS 君ら数名の卒業生がカラオケボックス

[1] 非公式サイトの参加メンバーは，当然のことながら自分たちの取り組みに「非公式サイト」という呼称は用いておらず。実際には自分たちの場や取り組みを「集会所」と呼んでいた。ここで「非公式」という語を用いているのは，①この時点でのサイトの取り組みや組織そのものが予め社会的に位置づけられたものではなく，②1 つの組織として捉えた際に，ルールや運営形態などが曖昧としていることが問題とならない状態であることを強調するためである。このことは，前後のボランティア日本語教室や Learning-shop と比較すると分かりやすい。

の前で輪になって別れを惜しんで話していた。その中で，TS 君が，皆で一つのことに取り組み何かを作り上げることの楽しさや達成感について語り，そのような場をこれからも続けていくことはできないのかと筆者や HI さんに提案してきたのである。

その後，4 月になって筆者と HI さん，高校生になった TS 君で何度か集まって打ち合わせをし，TS 君が住む団地集会所で週に 1 度集まる機会を作り，いろいろなことに取り組んでみようという話になった。翌月からその集まりは開始された。

この非公式サイトでは，ギターを練習したり，卒業生がボランティア団体から依頼を受けたスピーチやライブなどの練習をしたり，日中関係について討論したり，夏休みの宿題勉強会を開いたりといったように，様々な取り組みがその時期に合わせて展開された。また，夏休みには，日本語教室に参加する子どもたちの交流を図ると同時に，自分たちのライブの場を自分たちで作ろうという目的で，ボランティア団体にキャンプ企画を提案し実施した。その過程で，不定期であるが参加してくれるメンバーの輪が徐々に広げられ，キャンプ会場下見や選定からプログラムの考案まで長期にわたって準備が進められていった。

そのキャンプ企画が終了した 8 月中旬以降，非公式サイトとしての活動は約 2 ヶ月にわたっていったん休止された。その間も，例えば HI さんと TS 君はギターを手にいくつかのイベントに参加したり，筆者自身もメンバーに会っていつから取り組みを再開しようかと話したりしていた。筆者としては，キャンプ企画という大きな目的を生み出し，共有し，時間をかけて達成した当時，その達成感が非常に大きなものであった反面，次にどのようなことに取り組んでいくのか，メンバーを強力に惹きつけるような今後の目的が何であるのか見通しを持てなかった期間であったように思う。

1.2. Learning-shop としての再開

9 月中旬，同じ研究室の PJ さんから Learning-shop の構想をうかがった。当初は，大学近くにサイトを作り実践を組織するというイメージがあったので，そこに高校生たちも訪れることができるかもしれないと期待していた。ちょうど夏休みの宿題勉強会で，小さな子どもたちの面倒を見ようとする高校生たちの(筆者にとっては意外であった)姿を思い出していた。

その後，非公式サイトで Learning-shop を展開する可能性を検討していく中で，筆者は 10 月初旬から何度か TS 君や HI さんの自宅に参加メンバーを呼び，研究プロジェクトの話を伝え，サイト活動の再開について意見を求めた。すると，その場にいた TS 君や TA 君，HI さんや KH さんからは，いつになったら再開するのか待っていたのだとの返答を受けた。また，研究プロジェクトの内容や関わりについても何度も尋ねられたので，当時筆者が見通すことのできた範囲で説明を試みていった。

予想以上に参加メンバーが再開を待ちわびており，筆者自身も Learning-shop としての展開の可能性を見極めたかったこともあり，10 月 21 日から活動を再開できるよう，HI さんと会場予約やメンバーへの連絡など準備を進めていった。また，その準備にあたっては，集会所に集うメンバーの

交流と情報交換をはかり，日本語教室を卒業していったメンバーにも参加の案内ができるように，携帯電話からも利用できるウェブ掲示板を利用していった。

2. フィールドの概要

2.1. M 団地集会所

本サイトは，M 団地の集会所で展開されている。M 団地は市内東部に位置する大規模な公営住宅で，中国帰国者[2]の家族が多く居住している。通常，中国帰国者は，帰国後に日本の主要都市にある中国帰国者定着促進センターで研修を受ける。その後，L 地方で中国帰国者が自宅を構える場合，いくつかの理由から公営住宅に申請する場合が多いという。

M 団地内には，数ヶ所の集会所が設置されている。その集会所は市が所有管理する施設であるため，利用申請の手続きを経れば，団地居住者以外の一般利用者も利用することができる。利用にあたっては，午前(9:00～12:00)・午後(12:30～16:30)・夜(17:00～21:00)の時間が設定されており，集会室が 3 部屋用意されている。台所も設置されており，簡単な調理なども可能である。利用料は，利用時間帯と利用する部屋によって異なってくる。平日は，午前から午後の時間帯までは管理人が常駐している。筆者たちが利用している集会所では，定期的な利用団体は数少ない。ただし，団地居住者の急な葬儀や団地居住者による常任委員会などにも利用され，申請が重なった際には一般利用よりも優先される。以下は，Learning-shop で利用している第 2・3 集会室の見取図である。

[2] 現在，中国帰国者は中国残留孤児及び婦人である一世とその配偶者，その子どもである二世とその配偶者，さらにその子どもである三世で構成される。二世家族(三世を含む)の来日方法は，一世である親が永住帰国後，私費で呼び寄せ家族として来日するか，または一世の同伴家族として国費で来日する。二世家族の住居は，来日直後は一世である親の住む公営住宅に同居し，その後，同じ団地内もしくは近隣の団地の公営住宅に別居して暮らす傾向にあるという。また，他の二世兄妹家族も同様の選択をするため，中国帰国者の家族は，親族同士が日常的に接触しやすい生活環境のもとで暮らす傾向が強いと言われる。

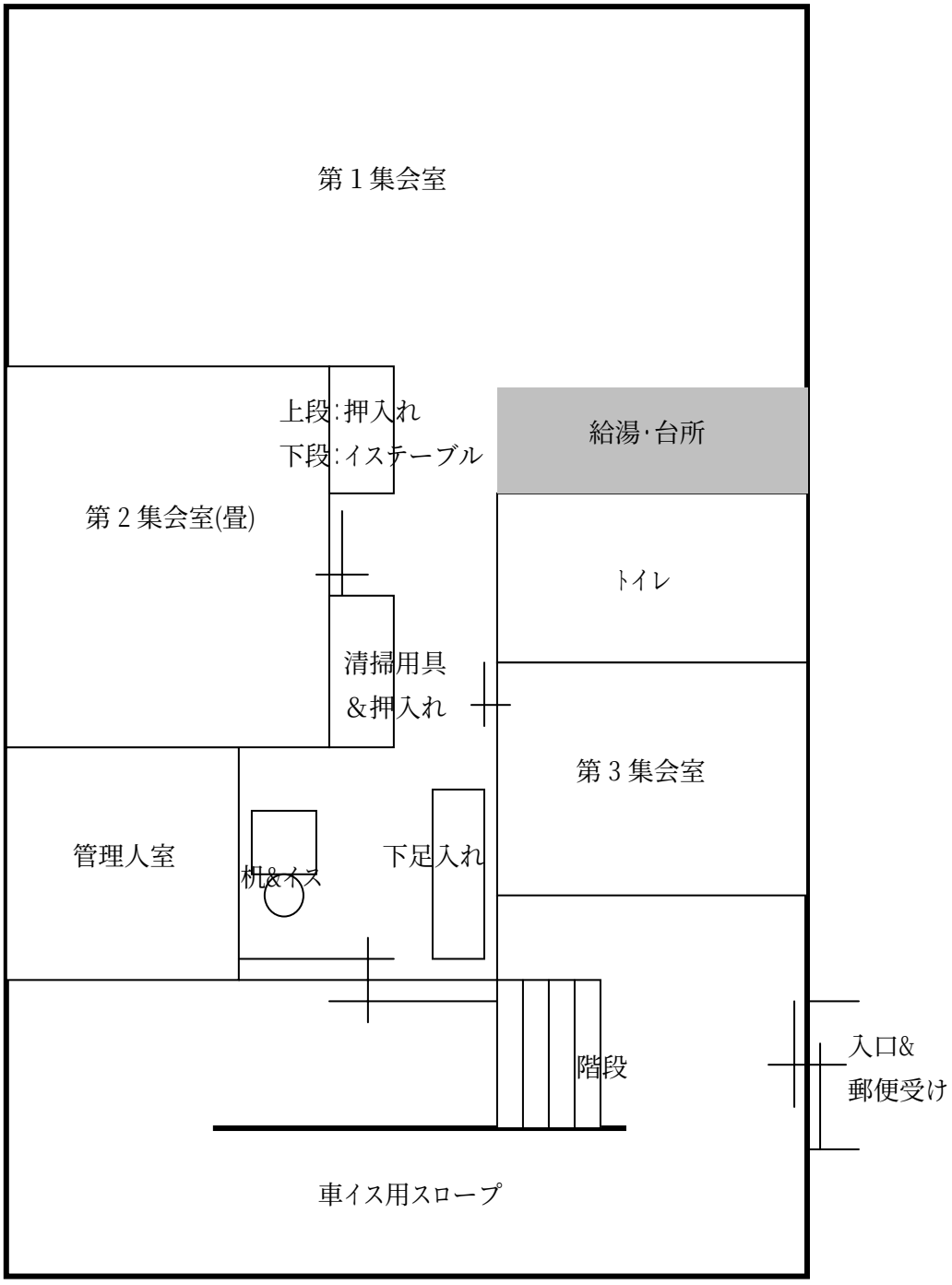
第１集会室
上段:押入れ
下段:イステーブル
給湯･台所
第２集会室(畳)
トイレ
清掃用具
＆押入れ
第３集会室
管理人室
机&イス
下足入れ
階段
入口&
郵便受け
車イス用スロープ

図１　M 団地第３集会所

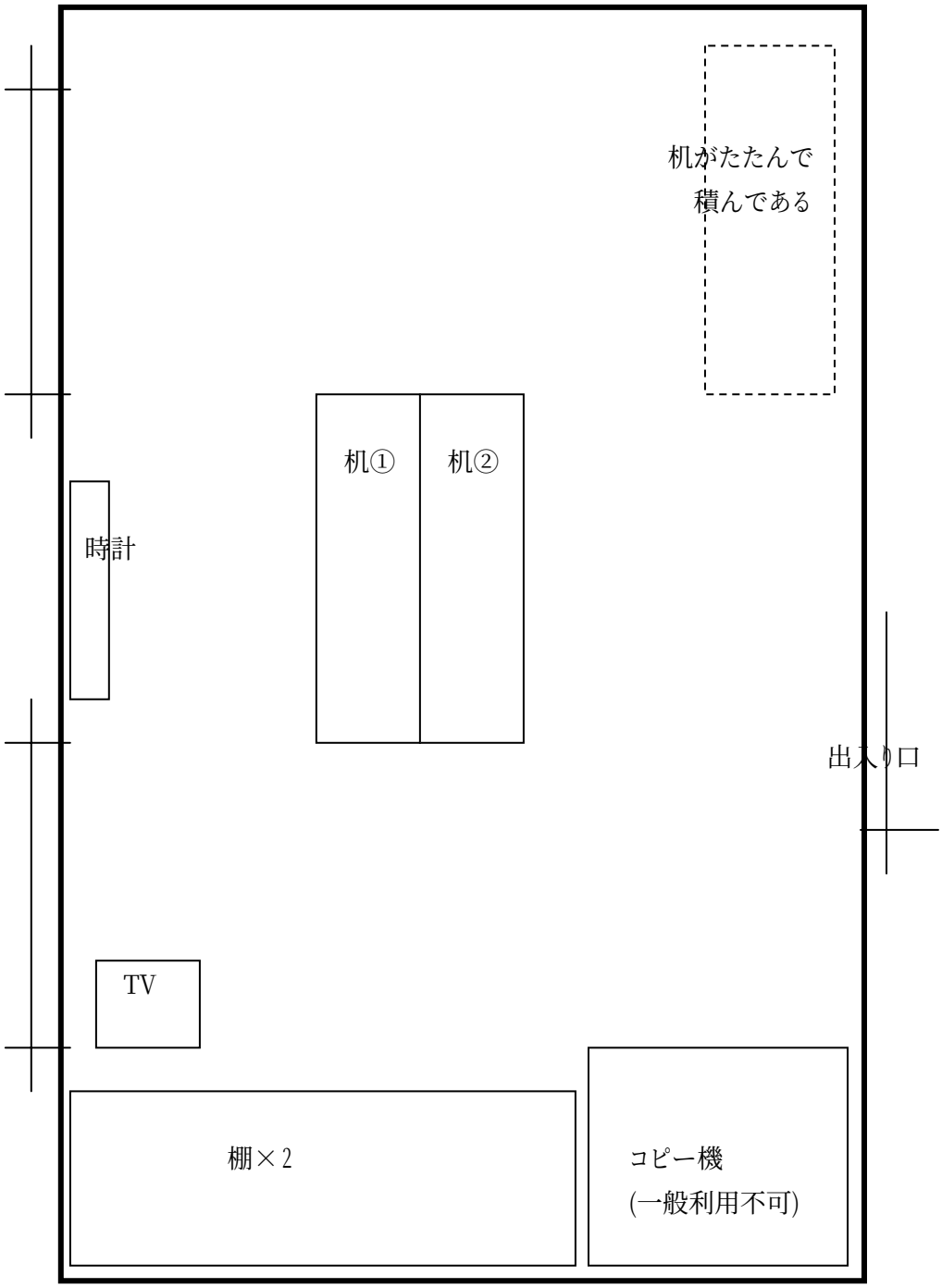

図 2　M 団地第 3 集会所第 2 集会室(畳敷きの和室)

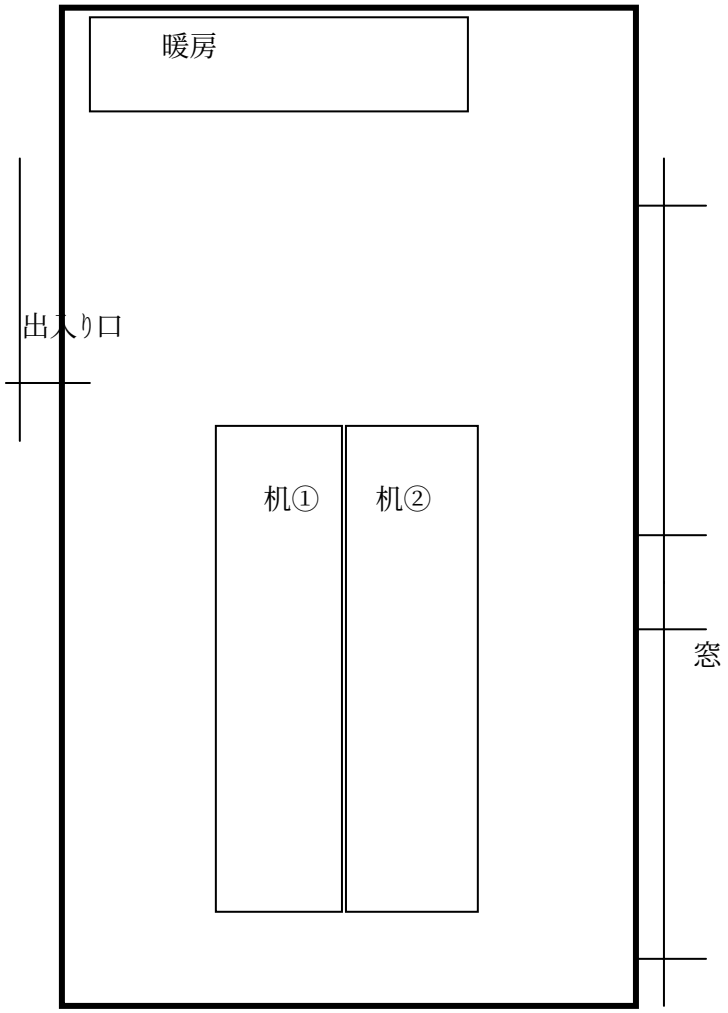

図 3　M 団地第 3 集会所第 3 集会室(フローリングの洋室)

2.2. 参加メンバーの概要

今期の Learning-shop『時光』参加メンバー概要及びメンバーの参加状況を以下に示す。

表 1　参加者の概要

【小学生】

RS 君	M 団地からは遠い地域に在住。O 小学校 6 年生。夏休み宿題勉強会やキャンプを通じて高校生や大学生たちと仲良くなる。現在，杉山がボランティア団体の日本語教室で担当している児童。2003 年にカナダから日本へ。

【中学生】

KK 君	M 団地在住, X 中学 3 年生。2000 年 2 月にフィリピンから日本へ。中学進学時に日本語教室を卒業。TS 君や TM 君とは顔見知りの仲。最近ギターに興味を持ち始め, サイト以外の場でも TS 君にギターを教えてもらうこともある。
TM 君	M 団地在住, X 中学 3 年生。1999 年 6 月に中国から日本へ。中学進学時に日本語教室を卒業。TS 君や KK 君とは顔見知りの仲で, TA 君とよく遊んでいる。最近ギターに興味を持ち始め, サイト以外の場でも TS 君にギターを教えてもらうこともある。

【高校生】

TS 君	M 団地在住, 隣の市の Y 高校 1 年生。2002 年に中国から日本へ。SS 君の兄にあたる。サイトには継続的に参加。「卒業お楽しみ会」でギターデビューし, このサイトのギター文化のきっかけを作る。得意教科は数学で, 将来は大学に進学し, 日中の架け橋になりたいと夢を語る。
TA 君	M 団地の地域からは地下鉄 4 駅分離れた団地に在住, 市内 Q 高校 1 年生。2001 年に中国から日本へ。以前から不定期であるがサイトに参加し, 徐々に参加頻度が高くなってきている。インターネットや武術, 中国の音楽やタレント, ドラマ番組に強い関心を持っている。アルバイトを転々としているがなかなか続かない。
SS 君	W 高校に通う 1 年生。2004 年に中国から日本へ。高校進学後は成績がトップクラスになり, 農業インターンや各種資格取得に励んでいる。部活動はバスケットボール。月に一度帰省するときにはサイトに参加する。ギターの腕をメキメキとつけ, その技術はメンバーから一目置かれている。
HH さん	M 団地に実家があるが, 市外で寮生活を送りながら P 高校に通う 1 年生。1999 年に中国から日本へ。部活動はバレーボール。毎週末実家に帰省している。

【ボランティア】

HI さん	大学 4 年生で日本語教育専攻。男性。ボランティア団体にも所属している。ギターを始めて長く, 高校生は彼からギターを学んでいった。
KH さん	大学 4 年生で日本文化·哲学専攻。男性。HI さんの友人で, 彼からの紹介をきっかけに非公式サイトに参加するようになる。楽器は弾かないが, ストリートダンスの経験あり。
SI さん	大学博士課程 1 年。女性。ボランティア団体に所属し, 中心的に運営している。M 団地のある地域に住み, 高校生たちとも日常的な交流がある。また, 『時光』サイトのイベント時には, 自家用車や食事などの提供を申し出てくれる。
YW さん	中国帰国者自立支援センターで働き, 外国人·帰国児童生徒巡回指導員も兼務している。女性。ボランティア団体に所属し, 中心的に運営しているが, 子どもたちだけでなく, 親を含めた家族全体の定住を公私にわたってサポートしている。

表 2 メンバーの参加状況

日付	RS	KK	TM	TS	TA	SS	HH	HI	KH	SI	YW	PJ	杉山
1021		○	○	○		○	○	○		○		○	○
1030				○	○			○	○			○	○
1105				○				○				○	
1113				○		○		○				○	
1120				○				○				○	○
1127				○				○	○				○
1204				○	○								○
1211				○	○			○					
1219	○			○	○	○		○	○	○	○		○
計	1	1	1	9	4	3	1	8	3	2	1	5	6

以上の参加状況に示されるように，これまでのサイトへの参加･訪問者は 13 名にのぼっているが，主に TS 君，HI さん，筆者を中心に参加メンバーは緩やかに組織されている状況にある。

3. Learning-shop『時光』サイトの活動内容の記録

続いて，10 月 30 日から 12 月 18 日まで，約 2 ヶ月間にわたって実施した Learning-shop の活動内容及びその実践の文脈について，この間に蓄積したデータ記録をもとに時間の経過に沿って記述していく。なお，筆者自身がフィールドノーツを記録した Learning-shop 実施日の一日の流れを分節しながらコーディングし，チャート化したものを表として合わせて提示していく。

3.1. 10 月 21 日(金曜日)

久々にメンバーが集い取り組みを再開していくことになったこの日は，いわばかつての日本語教室の「同窓会」のような雰囲気に包まれていった。まず，事前に TS 君自ら周囲に再開を案内し，筆者も予想していなかった顔ぶれが集っていった。例えば，中学 3 年生の KK 君や TM 君，ボランティア団体の SI さんがそうだ。

表 3 FN051021：一日の流れ

時間	No.	エピソード
16:00～	1	杉山，L 駅へ移動

17:03～	2	杉山, M 団地第 3 集会所到着
	3	第 2 集会室入室―TS 君は領収書を取りに帰る, KK 君･TM 君と再会
	4	杉山, 管理人室へ向かい各種利用手続き
	5	再び第 2 集会室へ―ギターを弾く, 音楽の話をする
	6	杉山, PJ さんを迎えに行く
17:33～	7	PJ さんが集会所に到着, メンバーたちと出会う
17:40～	8	SI さんが集会所に訪れる, メンバーたちの近況報告やトーク
17:50～	9	PJ さんと TS 君で中国音楽トーク(杉山は SI さんから業務連絡)
17:56～	10	KK 君と TM 君が集会所を退出する
18:10 前後～	11	引き続き PJ さんと TS 君が中国音楽トーク
18:25～	12	HI さんが到着し, 思い思いに音楽トーク
	13	SI さんの自宅に行くか, 行かないかを考える
19:10～	14	集会所を退出し, これからの取り組みを話しながら移動する
19:35～	15	SI さん宅に到着し, 二階の部屋で SS 君･HH さんと再会する
	16	HI さん･TS 君･SS 君のミニライブ①
	17	録画したビデオをみんなで見てみる①
	18	HI さん･TS 君･SS 君のミニライブ②
20:35 前後～	19	録画したビデオをみんなで見てみる②
20:50～	20	HI さん･TS 君･SS 君のミニライブ③
	21	録画したビデオをみんなで見てみる③
21:03～	22	PJ さん, 帰宅の準備を始める
	23	思い思いに弾き語り, トーク
21:25～	24	HI さん-杉山はギターレッスン, TS 君-HH さん-SS 君は弾き語りやトーク
21:55～	25	TS 君-HH さん-SS 君は夕食, 杉山-HI さんはレッスン続行
22:05～	26	4 人でこたつを囲んでトーク
22:25～	27	後片付け

この日は, 集会室で TS 君が中学 3 年生の KK 君や TM 君にギターの弾き方や曲について教えていくところから取り組みがスタートした。あとで確認したところ, TS 君がギターに興味を持ち出した KK 君や TM 君を集会所に誘ってみたとのことであった。その後, PJ さんや SI さんが到着し, 音楽を聴いたりギターを弾いたりしながらそれぞれお喋りが続けられていった。久々に顔を合わせるメンバー間では, 和やかに近況報告が交わされ, そしてテーブルを囲んで畳の上に座り, 思い思いに音楽や勉強などについて語り合っていった(ただし, 途中で KK 君と TM 君は集会所から退出する)。

特徴的だったのは, PJ さんが持参してきた中国の音楽の CD を手に TS 君に話しかけ, 自分も歌えるようになりたいと語り始めたことをきっかけに, 2 人の間で曲や歌詞についてのやりとりが盛り上がっていたことである。特に TS 君は, PJ さんに中国語の意味や発音, 中国の音楽の流行などをうれしそうに語りながら, 自分も何曲か中国の曲を弾き語りしてみせていた。

FN051021-N0.9 より----------

PJ さん，持参した CD を手に TS 君の隣に移動し話しかける，「CD 持ってきたんだけど，これ知ってる？」。すると TS 君，寄りかかっていた壁から急に前のめりになり，CD に目をやる。TS 君，「ああー！これ，知ってる！さっきの，『I believe』の人の，バージョンの○▲□×…」と言って，テーブルに身を乗り出していく。先ほどの疲れていた顔から一転し，楽しそうな笑顔。TS 君，「あぁ，これ知ってる，俺が知ってるのは…」と，PJ さんと CD について話し合う声が聞こえてくる。声のトーンが高くなっていく。TS 君，「俺，好きなのは…」，PJ さん，「私はこの曲が好きで…」と話している。

(中略)TS 君，PJ さんが練習できるように考えてか，カラオケボックスにある中国語の曲について説明をしたり，最近の流行のグループ(彼イチオシの F4 など)を紹介したり，PJ さんからの歌手についての質問に答えている。

PJ さんと TS 君，簡体字の読み方についての話題に移っていく。『しつこい』の漢字について，日本語ではどのような漢字なのか。会話の中に，『煩わしい』，『悩む』などの言葉が聞こえてくる。その会話を経て，PJ さん，『悩む必要はない』と口にして歌詞の内容の理解に到達する。

TS 君，中国語の曲を弾き語りして PJ さんに聞かせることになったらしく，ギターを手繰り寄せ抱える。弾き始める前にいったん止まり，「どう，歌っても分かんない？」と尋ねるが，PJ さん，「でも雰囲気って感じ，気持ちで」と応え，それを聞いた TS 君，弾き語りを始める。PJ さん，弾き語る TS 君を見ながら曲に耳を傾けている(ようである)。

FN051021-N0.11 より----------

TS 君，隣に座り，「発音，難しいんだよ」と言って，発音を教えている。2 人，曲や歌手について話しながら，CD を聴いている。TS 君，ギターを抱え，曲を聴きながら，「特徴あるよね…この人の声」とコメントする。そのうちに，PJ さん，「雨，降ったのね，ここで」と歌詞カードを見ながら詞の内容を確認する。TS 君，「うん…『運命の人』，だね，ここ」と歌詞の内容を追って PJ さんに説明していく。

HIさんが到着し，さらにメンバー相互の近況報告や歓談が続けられた後，19時近くなって，突然SIさんが自宅に来ないかと提案した。この日，集会所では他の利用団体があり，HIさんも少しうるさいし気になるから移動しようと皆に呼びかけ始めた。筆者としては Learning-shop の話をしようと考えていたが，帰省している SS 君や HH さんも参加できることもあって，初回は再会を楽しむ雰囲気を壊さないようにメンバー間のつながりを確認していこうと判断し，2 人の提案にしたがうことにした。

SIさん宅に移動後は，ほとんど家具を設置していない非常に広い(12畳くらいの)スペースをお借りし，合流したSS君やHHさんを含めて互いの近況について語り合ったり，ギターの弾き語りをしたりしていった。

HIさんの呼びかけで，TS君･SS君･HIさんの3人による即席ミニライブも開かれた。筆者がカナダの竹内さんにも自分たちの様子を送ったらよいかもしれないと提案し，デジタルビデオカメラやデジタルカメラでライブの様子を撮影し，一曲終わるごとに皆で輪になってそれを鑑賞した。最初は，画面に映っている自分たちの姿を見て笑っておもしろがるだけであったが，2 回，3 回と繰り返すうちに笑いが減り，それぞれ真剣な画面を食い入るように見つめるようになり，どこがうまくいってどこが失敗したか，フレームやズームをどうするか，どのように並ぶときれいに見えるようになるかといったことがコメントされるようになっていった。

FN051021-N0.18 より----------

TS 君，「じゃ，本番いく？」と呼びかける。杉山，3 人の奏者にカメラのフレームの空間的な位置を教える。それぞれ，音を合わせながら，準備を進めている。杉山と PJ さん，バンドの自己紹介を求める。HI さん，「英語で？」と尋ねるが，PJ さん，「いや，向こうで日本語勉強している人たちだから，日本語で…」と話したところで，SS 君が状況の説明を求める。杉山と PJ さん，竹内さん，カナダ，日本語を学んでいる高校生の話を簡単に SS 君に説明する。HH さんも壁際に座りながら，じっと PJ さんを見て話を聞いている。

どういう順番で自己紹介をするか，何を話すかを打ち合わせする。TS 君，「年，名前，趣味，あと…何のために生きているか」と言って笑う。TS 君の号令で自己紹介が始まる。

HI さん，一歩前に出て，「えっと…こんばんは…HI です」と自己紹介を話し始めるが，はっと気づき「おはようございます」と言いなおす。TS 君，「そうそう，向こうは朝だからね」と時差があることを指摘する。HI さん，途切れ途切れで名前を言い，竹内さんに挨拶をするが，HH さん，途中で笑いながら「これ，やばくない？やり直した方がよくない？」と指摘する。

続いて，TS 君が自己紹介。こんばんはと口にしたあとで，おはようかな，と言い直す。竹内さんに向けて，1 年ぶりだということ，ギターを始めて半年だということ，今日は竹内さんと向こうで一生懸命日本語を勉強している友達のためにミニライブを開きたいということ，考えながら話す。その途中，SI さん，電気スタンドを照明にして，床から奏者たちを当て始める。

続いて，SS 君の自己紹介。中央に歩を進め，カメラに向き直り，竹内さんに向けて久しぶりだと話し始める。4 月からギターを始め，だんだんうまくなっていったこと，今日は，「僕の

日本語の先生」の HI さん，「僕の兄弟」の TS 君と一緒にライブをすることを話して，戻る。それぞれの配置に戻り，TS 君，「じゃぁ，行きますか」の号令。

FN051021-N0.21 より----------

(演奏終了後)話を聞いていると，どうやら HI さんと TS 君の間で音の大きさのバランスがとれておらず(?)，SS 君が自分のギターの音が表に出ていかないという状況を説明している。そして TS 君，「見てみるか」と行って巻き戻しをしているビデオカメラの前に陣取る。「だめだ，失敗じゃない，これ?」とつぶやきながら巻き戻しを待つ。TS 君，ビデオを見ながら，フレームに邪魔なものが入っている，音のバランスが良くない，影が出てきている，といったようなことを周囲に教えるように指摘していく。杉山，いったんカメラから距離をとり，カメラを囲むメンバーを観察し，その様子もデジカメに画像として収める。デジカメには目もくれず，TS 君と SS 君はビデオに見入っている。HI さんもビデオの輪の中に加わり，皆で演奏についてコメントしていく。時折，TS 君と SS 君は，一言二言，中国語で言葉を交わす。一息ついて，HI さん，「何かいいなぁ，映像いい，カメラはもう一台必要？」，TS 君，「この場所いいよねぇ」とつぶやく。

その後，PJ さんが帰宅し，メンバーは SI さんが作ってくれた夕食をごちそうになり，歓談をしたりギターを弾いたりしながら過ごしていた。22 時をまわったところで解散しようとするが，外が大雨であることに気づき，SI さんが HH さんと SS 君を自家用車で自宅に送っていった。TS 君は SI さんの申し出を断り，雨が小康状態に入ったときに自転車で帰宅していった。別れ際に SI さんが，勉強も頑張ってと声をかけると，SS 君はニコリと笑って元気よく「はい」と返事し，TS 君は「勉強もやんなきゃな，大学生になりたいしね，俺も」と笑顔で答えて玄関を出て行った。

3.2. 10 月 30 日(日曜日)

前回が同窓会のような雰囲気でメンバー間の交流が再開されたことを踏まえ，この日はいよいよ Learning-shop としての今後の取り組みの計画とその内容についての話し合いが始められた。まず，自分たちの集まりのグループ名について話し合い『時光』に決定し，続いて今後何をしていきたいのかを考えていく中で，映画製作というアイディアが生み出されていった。

表 4 FN051030：一日の流れ

時間	No.	エピソード
	1	M 団地第 3 集会所に移動し, 到着する
17:02～	2	先週の映像を PC に取り込みながらお喋りをする
17:53～	3	自分たちのグループ名をつける:『時光』という言葉が出てくるまで
18:12～	4	杉山, 買出しに行こうかと申し出る
18:16～	5	TA 君を含めメンバーに研究プロジェクトについて説明する
18:19～	6	自分たちのグループ名について考える:『時光』に込めるメッセージ
18:35～	7	KH さんと杉山, スーパーに買出しに行く
18:56～	8	いろいろな話をしながら夕食をとる
19:27～	9	今後何をしていきたいのか考える:バンド活動をやりたいのか？
19:45～	10	思いつきの中から映画製作というアイディアが生まれる
19:51～	11	どのような映画を作ってみるのか, ストーリーを話し合う
20:04～	12	映画にどのようなメッセージを込めたいのか, 語り合う
20:08～	13	作った映画はどうするのか？→自分たちの映画の魅力は何なのか？
20:11～	14	エンディングから映画タイトルまで, いろいろなアイディアを膨らませていく
20:18～	15	ストーリーの矛盾に気づき, 調整しようとするがうまくいかない
20:30～	16	TA 君, 成績次第で留年するかもしれない状況を語る
20:35～	17	各メンバーの今日の取り組みの感想をビデオカメラにおさめる

グループ名の決定については, 以前からメールや掲示板などで筆者から提案していた話題で, KH さんが考えてきた「P2P」というグループ名についての説明から話し合いがスタートした。「P2P」について TS 君や TA 君の反応が今一つといった感じで, 続いて TS 君がいくつか立て続けに思いついたグループ名を提示していったが, これといった決め手に欠けていた。ところが, TS 君が『時光』という語を口にすると, 他のメンバーはそれが何であるのかと関心を寄せていった。TS 君はそれが中国語であることを皆に伝え, そこに込めるメッセージを語ってみる中で, メンバーからその名について賛同を得ていった。

FN051030-N0.3 より----------

その後,「チャイナ楽々」,「チャイナ楽ジャパン」,「チャイ楽ジャパン」など TS 君から立て続けに提案が続く。杉山，そこに込められたメッセージはどのようなものかと尋ねるが，TS 君はその質問には直接応答せず，思いついたかのように「チャ楽」,「チャペ」,「チャパン」,「チャッパ」など提案を続けていく。PJ さん,「『楽々』はどうする？」と尋ねるが，TS 君,「いらないんじゃないんすか」と言って笑う。TS 君の提案がいったん途切れ，しばらく沈黙が続く。TS 君,「P」は入った方がいいと口にし，それをきっかけに,「CP」,「C&P」,「P→C」

など提案を再開していく。

【18:07】

また沈黙を経て，TS 君，「やっぱ漢字が入った方がいいね…」とつぶやき，突然顔を上げて明るい表情に一変させ「分かった！『時光グループ』」とひときわ大きな声で叫ぶ。杉山，大きな声であぁーとうなる。PJ さん，「ジコウ」とはどのような字を書くのか，KH さん，それは犯罪の「時効」のことなのかと立て続けに TS 君に尋ねていく。杉山，時間の「じ」に「ひかり」と書くと説明する。KH さん，TS 君に向かって「意味は？」と尋ねると，TS 君，同じような声のトーンで，しかし嬉しそうなで表情で「意味は？」と杉山に向かって説明を促す。杉山，「非常に大切な，かけがえのない時間」と説明すると，TS 君，そうそうと頷き，次の瞬間，「『時光』小隊」と口にする。PJ さん，「こんなですか…，T シャツに書いてあるとかっこいいかも」と言って書いたものを見せる。KH さん，あぁ～と言ってのぞきこむ。PJ さん，中国語で発音するとどうなのかを TS 君に尋ねると，TS 君，「シーグゥアンショウドゥェイ」と発音してみせる。杉山，「TA，どうだ？」と尋ねると，TA 君，はにかみながらうれしそうに「いいんじゃない？」と答える。

FN051030-N0.6 より----------

杉山，今日の内容はグループ名と今後の予定決めにしようとあらためて確認すると，TS 君，グループ名は『時光小隊』，バンド名は『時光速攻隊』と答える。杉山，なぜそれが俺たちの名前なのか，誰かに説明するときにどのような話をすればよいのかと TS 君に尋ねる。すると TS 君，「まず時光というのは，まず時光から説明しなきゃだめだよな。えと，日本人には出会いのない言葉で，僕たちが，海外から輸入してきた輸入品で，それで，時光というのはもちろん大切な時間という意味で，それを大切にすることも，もちろんその時間を大切にすることも一秒でも早く当たり前のことだと思って，それに速攻という言葉を加えて，迅速的に時間と勝負，そして長距離を走っていく。僕たちはそういうグループで，そういう段階で，そういう軍隊で，どっちかというと僕たちは時間と勝負しているグループ，がメインかな」と杉山に向かって，しかし知らない人に紹介するかのような調子で説明をする。

その後，TS 君や TA 君が食事をとっておらずお腹が減ったということだったので，杉山と KH さんで近所のスーパーに買出しに行き，皆でテーブルを囲んで簡単な夕食をとった。その後，HI さんが合流して今後の活動内容の計画について話し合われていった。

TS 君がバンド活動をしたい，音楽がやりたいと話し始めると，HI さんが真剣な表情で，それが本当にやりたいことなのかと何度か問いかけていった。他のメンバーは TS 君の意向に沿うようにコメントを添えていく中，HI さんだけは表情を変えずに，執拗だと思えるほど TS 君が何か口に出すたび

に，それがやりたいことなのかと問いかけ続けた。TS 君が「日本語を勉強している人たちが集れる機会」と口にすると，HI さんは頷きながら TS 君に説明を促すような反応を取り始めた。

後に確認したところによると，HI さんはこの集まりが「単なるバンド活動以上のものなんだ」ということに TS 君に気づいてほしく，「そんな単なるバンド活動ならスタジオ借りて週に一回，楽器の練習をすればいいっすよ。でも俺たちがやってきたのはたぶんそういうこととは少し違うような気がして。たしかにギターはあいつらを変えたけど，それを俺たちにしかできないことにつなげていってほしいと思いません？(FN051119：某市民センターでの筆者との会話より)」と語っていた。

FN051030-N0.9 より----------

それまでうんうんと頷きながら話を聞いていた HI さんが口を開き，「まず…，その，バンド活動をやるの？バンド活動がしたいと？」と TS 君に向かって問いかける。TS 君，「要は，そういうことでしょ，こういう話聞いたらね」と答え笑う。HI さん，その言葉を聞き終わってから真剣な表情で「いや，バンド活動したいならスタジオが一番いいと思う」と語り始める。HI さん，スタジオであればドラムもあり，週に一回スタジオに集って，そこで練習をすればよいと説明を続ける。KH さん，S 区の近くにスタジオがあると言うと，TA 君，「俺んちめっちゃ近い」とうれしそうに笑顔で反応する。

いったん間を置いて，KH さん，「音楽がやりたい，と」とつぶやき，TS 君に視線を送る。すると TS 君，「音楽を通して，いろいろやりたいというのがある」と先ほどとは少し違う表現で KH さんに答える。すると HI さんが間髪入れずに，バンド活動にしてしまうと，バンドに参加しているメンバーしか楽しめないと指摘する。杉山，TS 君に例えば音楽を通してどのようなことができるだろうかと問いかける。TS 君，いったん宙を見上げ考えて，「カナダへつながる，音楽で」と答える。KH さん，「ま，音楽以外にやりたいにしても，何か一つのことに集中してやんないと，何か…」と言うと，TA 君が「太極拳？」と言って上半身で構えを作って一同の笑いを誘う。HI さん，「例えば，バンドの目標としてはライブじゃない？で，ライブやるにもライブハウス借りるのにまた金がかかる」と語ると，PJ さん，「予算の部分では全然オッケーですよ，何でも言いたいこと言っちゃって下さい」と明るく答える。それを聞いた TS 君，「まじっすか！？」と大きな声を出して驚く。杉山，「音楽と…」と言いかけると，TA 君がすかさず「格闘技！」と後に続く。

いったん間が空き，TS 君が思いついたように「あっ，ボランティア活動…，例えば？お年寄りのお手伝いとか。俺たち自体がボランティアだし」と語り始める。杉山，「んー，そうだなぁ」と答える。しかし HI さん，「老人ホーム行って演奏するとか？…でもそういうことやっている人たちはもういるからね。だからそういうとこに入ればいい，そういうことしたいなら」と真剣な表情のまま，TS 君に語りかける。PJ さん，「自分たちの曲作るのは？」と提案すると，TS 君，

「曲は作れない…，でも歌詞は楽勝」と答える。KH さん，「何かその…，はっきりしないんだけれども，音楽がやりたくて音楽のユニットに参加している人たちで，何をやりたいかっていうことを決めちゃわないと。それがないよね」と HI さんと TS 君の顔を交互に見ながら話す。

TS 君，身を乗り出して「分かった，やっぱり…，日本語を勉強している人たちが集れる機会」と言いかけたところで，HI さんがうんうんと何度か頷いて間をおいて，「そうだね」と小さな声で反応する。TS 君，続けて「で，例えば L 市内だけでなく L 地方全部見ても，ね，だけどもバンドやってるのは俺たちしかいない，他のところはどうしようか，で，そこで交流会をやると。いいんじゃないすかね」とメンバーの顔を見回す。TS 君，間をおいて「まずとりえが大事だと思う」と小さな声でかみしめるように言うと，KH さん，「そうだね…，何で交流するかっていうと音楽」と同じようなトーンでつぶやく。HI さん，「で，他にゲームなんかもする」と続く。TS 君，「そうそう，で，音楽といったら文章も入るし，日本語の勉強にもなるし」と話す。杉山，「そういう子どもたちが集まれる場所を作ろうと」と TS 君の方を見ると，TS 君，「そうですねぇ，やっぱね」と言って頷く

その後, TS 君が思いついたようにパッと表情を変え,「劇」をやってみようと提案し, そこに音楽を組み込んでみてはどうかと提案する。また, PJ さんがそれをビデオカメラで撮影してみてはどうかと提案し, すかさず KH さんが「自主制作映画」と叫び, メンバー一同の表情が変わった。

FN051030-N0.10 より----------

TS 君，思いついたように表情をパッと変え「あっ，劇やればいいんじゃないの？劇！…冬ソナ」と提案し，冬のソナタのテーマのワンフレーズをギターで軽やかに弾く。すぐに監督は誰か，主役は誰かと役割分担に話題が集中していく。TS 君，そこに音楽を盛り込めるとおもしろそうだと提案を続けると，KH さん，「あぁ〜，演劇と音楽をミックスすると」と感心したように声をあげる。また，メンバー間でどこで撮影をしようか，機材をどうしようかといったアイディアが出し合われていく。

PJ さん，それをビデオに撮っておくとカナダにも送れるのではないかと提案すると，すぐさま KH さん，「あぁ！映画！自主制作映画！」と人差し指を立てて大声で叫ぶ。TS 君，わくわくした表情で「やりたい！それやりたいなぁー，自分でセリフを考えて，映画撮りたいなぁ。中国語？中国語の字幕出せば，ね…どうしようかな」と姿勢を正して周囲をさかんに見回している。

そして, HI さんからどのような映画を作るのか考えてみようと話題提起があり,「高校生の修学旅行」という設定で何度もストーリーは語りなおされ, 細かな設定も詰められていった。

FN051030-N0.11 より----------

【19:51】

HI さん,「とりあえず，どんな映画を作るか考える」と問題提起する。TA 君,「それ何月にやるの？」と隣にいる TS 君に尋ねると，TS 君,「1 月」と答える。すぐに TA 君,「新年会でやるの？」と聞き返すが，TS 君，下を向いて「ちがう」と答える。HI さん，高校生の話にすればよいのではないかと TS 君に向かって提案すると，TS 君,「あっ，いいかも，修学旅行でいいんじゃない…，オッケイ，ちょっとお笑い入るな」と続け笑う。TA 君,「場所はどこ？」と HI さんに尋ねると，集会所や学校でいいのではないかと答える。

(中略)KH さんが「分かった，そこで誰か脚本を書いてきて…」と話し始めたところで，TS 君が手をかざして「分かった，分かった，分かった」と何度も繰り返しながらメンバーの注目を集めようとする。TS 君，手で身振りをつけながら「俺と TA がちょっと困った高校生で，それでみんな集団からちょっと抜け出して，行方みたいなちょっと広いところで座って話しているのさ，そして 3 人のストーリーが始まると」とメンバーの顔を見まわしながら説明していく。HI さん,「それ，抜け出したとっから始まるの？」と TS 君に尋ね，TS 君,「そそ，部屋とかホースとか入れて鯉とかも入れて，で，みんなの『もう駄目だ』っていう雑音とかも入れて，二人だけで来て，で，その後パーッて追い，つかまえ，ね…，ついてきたるなぁーと，でまた，遊んだりして，ね」と説明を続けていく。そして膝をトントン叩きながら，下を向く。PJ さん，なぜ抜け出したのかと TS 君に尋ねると，TS 君,「だから，仲間の，なんつーかそーゆー」と行って膝をこする。

HI さん，それで先生はどうなのかと尋ねると，TS 君，再び手をかざして上下に振りながら「だから，先生がいないうちに俺ら抜け出して，先生が帰ってきたら『もういないよ』って言われて，それで…，行けばいいんだ」と言って説明に合わせて最後は勢いよく自分の手を後方に向ける。HI さん,「なるほど，先生がドアをノックしたら『おぉ，いねぇ』と…，そこで始まっていく」と身振りつきで説明し，にこりと笑う。TS 君,「そそ，そして,『TS たちはどこ行ったんだ？』,『どっか行った』みたいなこと言ってて，それで『何で止めねぇーんだよ』って言って雪の中にダッシュしていく。雪の中を走る姿を撮れる」と言って再び最後は手を後方に勢いよく向ける。HI さん，手を叩いて笑い始める。TS 君もつられて笑い，両手をふりまわしながら「『TA～！TS～！返事してくれぇ～！』」と間延びした声で実際に座ったまま演じて見せる。TS 君,「もっと涙ぐんで，それでこんな感じ？(姿勢を起こして天井を仰ぎながら)『俺

はだめな人間だ』」と言い終わったところで，TS 君，背もたれに姿勢を崩して足を組んで自分も笑い始める。

(中略)杉山，なぜ修学旅行なのかと問いかけると，TS 君，杉山の方に向き直り「だって，男子の恋の始まるのは修学旅行でしょ？」と説明する。HI さん，「あぁー分かった，そして 2 人は失踪中にさすらいのミュージシャンみたいな人に出会う。そこで説得される，『いやぁーお前らさぁ，生きてたら辛いことあるんだよ』」と言ってその役を自分が引き受けると申し出る。HI さん，もう脚本はできたのではないかとメンバーを見回す。

TS 君，一息ついて「でもあれ，絶対ね，3 人が雪のつまったところで話し合った方がいいと思う。3 人の話じゃん」と語り始める。TS 君，「だって俺らがどうして戻らなくちゃいけないの？どっか別のところに泊まって，2 人で話し合って，探しに来て，『あぁ，ぺーちゃん(※筆者)だ』っつって，『あれ，どうしようかな，返事する』ってみたいな，最初悩んで，その後，ずぅっと枯れるほど叫んで，そんで俺らが走っていって，抱き合って，『先生～』みたいな。ってなって，そしてわけを話して，で，何か外でいろいろね，やりとりしてくれれば…，で，やっと納得したようで，『したら，一曲歌いますか』みたいで…，ごめん，それは冗談」と言って笑い出すが，TS 君，続けて「そして 3 人は人生の悟りを開いて，3 人が並んで宿舎に戻る姿，背中を撮って，で，一回暗くなって，それで，エンディング」と説明を続けていく。

FN051030-N0.12 より----------

【20:04】

HI さん，「何が言いたいの，その映画で，メッセージ」と TS 君に向かって尋ねる。TS 君，「何が言いたい…，それは，先生と生徒の絆。まずちっちゃな恋から始まって，その後，関わってくるのは，生徒と先生の間のあれだから」と言って HI さんを見ながら軽く頷く。HI さん，うんと相づちを入れながら，杉山の方を軽く指差し「なぜ先生はそんな生徒想いなの？二人との関係は何なの？」と TS 君に問いかけ，マグカップを口に運ぶ。TS 君，「まず俺は，日本語クラブ」と一言口にするが，HI さん，再び杉山の方を軽く指差し「いや，でも学校の先生なんでしょ」と聞き返す。TS 君，「そう」と小さく返事する。HI さん，「日本語教えてもらってたの？」と尋ねると，TS 君，間を置いて突然大きな声で，「俺ら外国人だから違うの，分かるの！？」と畳み掛けるように答える。TS 君の表情や声のトーンが硬くなっている。KH さん，「いやぁ，映画だから都合のいい設定作っちゃっていいんじゃない」と間に割って入る。TS 君，「だから，普通の学校の先生でも俺らに対して見方が違うのさ，分かる？普通の生徒と…」と言いかけて，HI さんが「外国人だから」と口にすると間髪入れずに TS 君が小さな声で「そう」と答える。HI さん，「ちょっと特別こう，目をかけてるみたいな…」というと，TS 君は同じようなトーンで「そう」と答え，「だから中国語を話せる役で」と杉山の方を軽く指差すと，一同に小さな笑いが漏れる。

TS 君，杉山の方を向き，にこりと笑って「一言だけでも中国語で言った方がいいね」と話す。PJ さん，「『待てー』とかさ」と言うと，TS 君，一回首を横に振り，「『待て』だめだな…，『頑張れ』とか」と言って数回納得したように頷いてメンバーの反応をうかがう。HI さん，ひじをついて考えながら，「『頑張れ』とか…，じゃ，そこ俺が日本語で書くから中国語に訳してよ」と TS 君に提案する。TS 君，杉山の方を軽く指差し，「でも長すぎるとけっこう覚えるの大変だから…」と話すが，杉山，それは練習すると言うと，TS 君，「練習するか，オッケイ」と言ってギターに目を落とす。

TS 君，「あとそういうサビのところで，流れた方がいいよね，音楽」と言いかけると，HI さん，「じゃぁ，それは俺が作るわ，編集するのは皆でやればいいじゃない。曲，こういうのがいいんじゃないかっていうのを持ってきて，あ，これいいかもしれんっていうのをやればいいんじゃない」とメンバーの顔を見ながら語る。TS 君，「あっ，中国の曲がいいね，やっぱり…，中国語の曲」と言って，うちにあるかなぁとつぶやきながら天井を見上げる。

また，上記のノーツにもあるように，登場人物が中国語を話したり，中国語の曲が流れたりするということを重視しているコメントが出され，TS 君がそのことにこだわりを見せてあるかのようである。ただし，この時点ではなぜそれが自分たちにとって大切なのか，この映画に中国語を取り入れながら作っていくことの意味は何であるのかといったことは，まだ話し合いの場で問われることはなかった。

FN051030-N0.13 より----------

【20:08】

KH さん，「で，作ったとして，それをどこで上映するか」と口にすると，HI さん，それはカナダに送ってくれるだろうと話す。いったん挿入歌の話題になり，カラオケで録音してくるのがよいという提案が出されるが，再び KH さん，L 地方の映画コミッションの話題を説明し始める。そのような場合には，中国語が入っているということが自分たちの映画の魅力になるのではないかと HI さんが指摘し，それを踏まえて TS 君は 2 人の高校生の会話を中国語で行うという提案を出す。

TS 君，TA 君に「お前，北京語練習しとけよ」と言うと，TA 君，最初は驚いたように「あぁ？北京語？」と口にするが，そのあと急ににこりと笑って「練習しないでも普通にできるから」と言うと，一同笑いが起こる。KH さん，「得意だよって話だ」といって笑っている。TS 君，顔を上げメンバーを見ながら「難しいよ，分かる？日本語だったらみんな普通に喋ってる

けど，それで無みたいに話していること全然通じるから，中国語だったら違うもん」と話す。
他のメンバー，静かに TS 君の顔を見て話に耳を傾けている。

これ以降も映画の制作や撮影に関わる話題は最後まで維持されていった。終盤にさしかかるにつれて，ストーリーの現実味や設定上の矛盾が指摘され始め，細部について変更を試みたり，矛盾の解消のためにストーリーの軸を修正しようと試みるが，メンバー間の意見の相違をうまく調整できないまま話し合いが続いていった。HI さんが脚本を書いてこようかと申し出て，ストーリーの主な語り手であった TS 君にいくつかの問いかけをしていくことで話し合いは進められていった。

FN051030-N0.15 より----------

HI さん，紙にこれまでの脚本の軸となる流れを，TS 君に向かって確認しながらメモをつけていく。時系列順に，ふられる，脱走する，探す，見つけられる，夜は一晩どこかで過ごすのかどうかといった場面順序を確認しながら，それぞれの時間帯などの確認を HI さんと TS 君の間で進めていく。合間に，KH さんが補足的なアイディアを提案していく。

HI さん，なぜ一人の学校の先生が 2 人の生徒を追いかけて探し出すのかということを再び問いかける。TS 君，少しイライラしたように「だからぁ」と説明を始めようとするが，HI さん，先生が探し始めるシーンでなぜ杉山が探しに行くことになるのかと先ほどと表現を変えて尋ねなおす。TS 君，「だから，担任っつーか，特別担当みたいなのでいんじゃないの？…，分かった，じゃ僕たちまだ日本語が完璧じゃなくて通訳やってたりして」と答える。杉山，「うん，とにかく日本語とか他のことでも学校で特別なつながりがある，と」と言うと，TS 君，そそそそと細かく首をふり，「担任の先生でもあるんだけれど，ボランティアの先生でもある」と語る。しかし HI さん，「いや，それは分かるんだけれど」と前置きした上で，学校の先生が一人で探している状況は不自然じゃないかと指摘し，TS 君，SI さんなど他のボランティアに参加してもらって，先生役をそろえようと提案する。

以上のように，この日は突然生まれた映画製作というアイディアについての話し合いに取り組んだ一日となった。最後のメンバー各自が感想を述べる場面では，皆映画はおもしろそうだと口々に言っていた。メンバーの誰もが全く予期していなかった展開であると口にしていたが，それがメンバーを強く惹きつけるテーマになりうることは確認できた。

また，この日の最後に，TA 君の勉強について話題になった。12 月の定期テストで成績が悪いと

留年しなくてはならないと学校の先生に諭されたそうだ。筆者は, 初め学校の先生が TA 君の勉強への危機感を煽るために言っているのかと思ったが, 話をしていくうちに TA 君の表情がみるみるこわばっていき, 本当に危機的な状況に立っていることが伝わってきた。

FN051030-N0.16 より----------

【20:30】

HI さん，下を向きながら「TA の勉強をがんばんないとな」とつぶやき，杉山の方に視線を合わせ，「ちょっとこいつ困ってるんですよ」と話す。TS 君，「赤点とったら留年だって」と続ける。KH さん，「まぁ，1 年くらい留年したって大丈夫っすよ」と少し困ったような笑顔で杉山に向かって言い，TA 君，「まぁね」とつぶやいてニコニコ笑っている。杉山，「やばくなったら，やるべ」と言うが，HI さん，「やばくなったらって，次のテストもう近いんすよ…，11 月…」と言いかけたところで，TA 君が自ら 12 月だと説明する。杉山，よし分かったと言って，集会所を週 2 回開けて，金曜日に勉強を，日曜日に映画製作をしようと提案する。すると TA 君，にこりと笑って，「よし決定！」と杉山に向かって言う。TA 君，成績不振で夏休み前に親が学校に呼ばれたこと，そして先週は先生に呼び出され赤点をとったら留年が本当に決定することを告げられたと杉山に話し，小さな声で，「俺のせいだ，勉強しないから，こういう結果になった」と小さな声でつぶやき，イスを座りなおす。HI さんと KH さん，TS 君は映画の話で盛り上がっている。杉山，「12 月まで頑張るしかないべ」と TA 君に言うと，TA 君，すぐに「明日から頑張るよ，1 日 3 時間やる」と答える。TA 君，杉山がどれくらいの期間アメリカに行っているのかを確認し，数回小さく頷き，そのまま床に目を落とす。TS 君たち 3 人は，作業の役割分担について，脚本と監督の違いなどを話している。

翌週以降, 筆者はサンディエゴ訪問で 11 月 5 日, 法事のために 11 月 12 日と立て続けに参加ができない状況を迎えた。その間, PJ さんが映画の絵コンテを製作して持参し, メンバーで話し合いを行い, 主に弾き語りをして過ごしたという報告を受けている。

3.3. 11 月 20 日(日曜日)

筆者が『時光』に合流したのは 11 月 20 日からであるが, その他に筆者は 11 月 19 日に市民センターで TA 君, TS 君, HI さん, KH さんたちと高校生のテスト勉強会を開き, 11 月 20 日の昼には筆者が TA 君の自宅を訪れテスト勉強を手伝っていた。本来は Learning-shop の場に集ってテスト勉強をしたり, 今後この場の活動をそのような勉強とどう結びつけて考えていくか, 勉強をしていくことについてメンバーで語り合ったりしようと予定していたが, 19 日は集会所の予約がとれず, 20 日は

TA 君本人が用事で集会所に訪れることができなかったので，上記のような対応をとった。

さて，この日は，研究プロジェクトの助成金申請書類の準備が PJ さんによって進められていたこともあり，Learning-shop としてこの場を位置づけていくことについてメンバーに了承をしっかりととり直し，今後の活動内容として長期的に映画製作を目標として設定してよいかどうかを確認しようと試みた。

表 5 FN051120：一日の流れ

時間	No.	エピソード
17:05～	1	M 団地第 3 集会所へ移動しながら PJ さんと話し合う
18:00～	2	お土産を食べながら，互いに近況報告を交わす
18:45～	3	PJ さんと杉山，ギターを教えてもらう ／PJ さん，HI さんに CD を紹介する
20:03～	4	映画製作を長期的な目標としてよいかどうかを確認しようとする
20:27～	5	即興でコントを演じ，互いに批評しあってみる
20:41～	6	目標設定の事情を話し，ここで何かに取り組む価値について語り合う

約 3 週間ぶりにメンバーに再会し，筆者からお土産を渡しながらアメリカでの話をしたり互いの近況を確認しあったりすることから取り組みが始まった。また，直前に筆者は TA 君からギターを託されていたこともあり，筆者や PJ さんが TS 君や HI さんからギターの弾き方を教わって前半を過ごした。また，PJ さんは，持参した CD を紹介して，『時光』のテーマにしてみてはどうかと HI さんに提案し，その曲を聴いて HI さんがギターで音を取って弾き語りの練習を始めた。

20 時をまわってしまったところで，筆者は話し合いを開始する号令をかけ，Learning-shop についての説明と了解，長期的な目標を設定して取り組むことについて，その他具体的な時間設定や注意事項などを説明していった。おそらく筆者の説明が「目標を予め設定してそれを達成しなければならない」という含みを帯びたものになってしまったからだと思われるが，映画を作ることに対する TS 君と HI さんの反応や構えを変化させてしまった。

FN051120-N0.4 より----------

杉山，映画製作については発案から時間がたってみてどうかと問いかける。TS 君，映画ねとつぶやく。杉山，映画をとることでよいのかどうかと問いかけると，TS 君，ギターの弦をゆっくり弾きながら，「自信ないな，ね」と HI さんに視線を送る。HI さん，「う～ん」と考えこんでいる。TS 君，「むずかしいもんね」と続けるが，HI さん，「俺は別に，撮ろうと思えば撮れると思うけど」と話す。TS 君，「演技とかがね」と言って再び HI さんに視線を送る。

杉山,「他にこう,時間を決めて皆で何か取り組んでみたいことってある？」と問いかけるが, TS 君がゆっくりと弦を弾く音だけが響き，返答はない。杉山，「俺は映画とか…，なんだろね」と言ってふふと笑う。TS 君，「ギター」と一言ポツリと口にする。杉山，「ギターを弾いて過ごすと」と TS 君に向かって言うと，TS 君，ひときわ大きな音でゆっくりと弦を弾き始める。しばらく沈黙が続いた後，HI さん，「映画…，映画を見る。見て，それがおもしろいかおもしろくないかを話し合う」と杉山と TS 君の顔を交互に見回して話す。説明しながら，HI さん，徐々に声が小さくなっていく。その後で，HI さん，集会所の中でできる演技の練習をしてみてはどうかと提案する。何かテーマを決めて，それをビデオカメラで撮影し，皆で観てみると説明する。杉山，それは一言でいうと何だろうとチョークを持って HI さんに尋ねると，PJ さん，小さな声で HI さんに向かってインプロビゼーションですねとつぶやく。HI さん，それを繰り返すが，TS 君，杉山に漢字で書いてほしいと頼み，杉山，即興劇と黒板に書き出す。TS 君，即興劇は得意だとメンバーに言ってニコリと笑う。PJ さん，即興劇のやり方を HI さんに説明している。杉山，それはやるとしたらどのくらいの期間やるのかと尋ねると，HI さん，驚いたように「えっ」と言ってとりあえずやってみると答える。杉山，もしできれば，半年後にこのようなことをしてみたいとか，一年後にこのようなことをしてみたいといった目標は作れるかどうかと問い直す。HI さん，そこを映画につなげていってはどうか，TS 君，劇にしてはどうか，HI さん，コントをしてみてはどうかと提案を重ねていく。HI さん，提案した後に，ドラえもんのショートコントを実際にしてみる。しかし，その後，ショートコントをこの場で実際にしてみるという方向に話題が移っていくが，すぐに沈黙が続いてしまう。

PJ さんが退出し, 3 人で実際に即興でコントを演じて見せ合って過ごした後に, あぐらをかいて輪を作り話し始める。杉山, なぜ目標を設定したいのかということについて, 助成金の話を TS 君と HI さんに始める。この時の筆者は「実践」の助成金と「研究」の助成金を混同してしまっていたが, 映画製作に挑戦することについて語り直しが始まる。

FN051120-N0.6 より---

杉山，なぜ目標を設定したいのかということについて，助成金の話を始める。申請するなら活動内容や具体的な目標を設定なければならないのだが，実は今の時点でどうしたらよいか悩んでいると語る。HI さん，うーんと唸って腕を組み，うんうんと噛みしめるように頷いている。TS 君，そっかぁと言って視線を下に向ける。

杉山，「来年は TS が 2 年生，HI さんもいつまでいられるか分からない，俺だってそうかも

しんないけどねー…」とつぶやいて小さく笑う。HI さん，「そうですよね」と言って腕をほどき後方について，姿勢を少し後ろに傾けて宙を見上げる。TS 君，ギターの弦を見下ろしながらゆっくりと弦をはじく。HI さん，がばっと姿勢を前に戻し，明るい表情で「(助成金を)出しちゃったらどうですか！」と杉山に言うが，直後に HI さん，「でもあんまりめんどくさいことはしたくないんですよね」と話す。TS 君，顔を上げ「途中でできなくなったら困るしね」とつぶやく。HI さん，「めんどくさいと思ったらだめじゃん，その時点で」と TS 君に向かって言う。杉山，「まずは…来週から映画の話をやる？」と HI さんに尋ねると，「うん，やりましょう」と頷きながら答え，TS 君，深く頷いてクスクスと笑い出す。杉山，「でも，他に挑戦したいことってない？例えば，俺たちにしかできないことってさ…，その国際協力フェスタのように」と言いかけたところで，HI さん，「杉山さんは何をしたいんですか？」と声のトーンを変えて尋ねてくる。TS 君，ギターの弦を弾く手を止め，杉山の顔を見つめている。杉山，「俺はやっぱ…，映画かな」と答え，自分たちをテーマにして自分たちの言いたいメッセージを映画にしていけばいいのではないかと説明を続ける。TS 君，「俺も映画，撮ってみたい…，おもしろそうだしね」と言ってニコリと笑って何度か細かくうんうんと首を縦にふる。

HI さん，小さな低い声で，しかし TS 君と杉山にしっかりと視線を交互に合わせながら，「これからいつまで，この活動が続けられるか分からないけれど，でもやりたいことに皆で取り組んできて，そうやって最後まで続けられたら，そして何か残せるものを皆で共有できるなら，やっぱりやる価値はあるんだと思う」と語る。TS 君，やはり映画を作ってみようと繰り返して立ち上がる。よっしゃと言って HI さんもギターを手に立ち上がり，「じゃ，決意のミニライブ，いってみようか」と大きな声で言って TS 君に視線を向ける。TS 君，「決意ね！そうだね。じゃさ，俺たちのテーマ…，そうだな，あれ，ケツメイシの『友達』とかは？」と曲を HI さんに向かって提案する。

この日は，筆者としては思うように展開が膨らまなかった一日だったと感じている。実践の実質的な動きや展開はなかったし，それはひとえにこの『時光』サイトという場と時間の中に Learning-shop を位置づけていく際の筆者の認識と手続きに見直すべき点があったからである。たしかにサイトの実践としては実質的な展開が見られず，逆にその場にいながら Learning-shop を展開していけるのかどうか不安や焦りが募ってしまった場面があった。だが，冷静になって記述を起こしていくと，この集まりを自主的な学びの場として社会的に位置づけ運営していく際に，「運営者」として筆者自身がしなくてはならないことと，「参加者」として筆者自身がやっていこうとすることの境界線について考え直すことができた。両者を混同してしまうと，社会的に位置づけながらの「運営」も，実質的な「実践の展開」も，どちらもうまくいかなくなってしまうのだと骨身にしみて感じた。

3.4. 11 月 27 日(日曜日)

筆者はこの週末も TA 君宅に訪れ，テスト勉強を手伝っていった。一緒に数回の勉強を重ね，ネックとなっている教科については何とか留年だけは免れそうだと語れるくらいの手応えを共有するに至っていた。日曜日の最後には，TA 君から残りは自分でできると思うから徹夜で頑張るだけだと力強く笑顔で宣言された。ここで土曜日の TA 君と筆者のやりとりについての記録を紹介しておく。

土曜日は，夜に TA 君と勉強を終え，二人だけではあったが彼の部屋で「勉強」について語り合った。TA 君は，「数学」はおもしろさを感じるし学校の授業も分かるのだが，「国語」や「世界史」などには全く興味がないし，つまらないと語った。ところが，その直後にそのような勉強もやらなくてはならないのだと別の語りを口にした。筆者は，そっかぁと相づちを打つのに精一杯だったが，しばらくしてからどうしてそのように思うのかと尋ねてみた。TA 君は，笑いながら，「だって，勉強しなきゃ大学行けないしょ？…っつても俺の成績なんて大学行けないか」と言って自嘲気味に笑っていた。

筆者が大学に行ってみたいんだと TA 君の言葉を繰り返すと，TA 君は真顔に戻って，少し声のボリュームを上げ何か焦っているかのように「だって，大学に行かなきゃいい仕事につけないでしょ。俺やだよ，あの…，力の…，力の仕事あるしょ。そういうの」と急いで説明しようとしていた。筆者は何と答えてよいか分からず，お前は中国語だって分かるし中国のこともたくさん知っている，少なくとも筆者や HI さんにはできないことや持っていないことをたくさん持っている，そのような経験をしてきた高校生は数少ないし，それは大切なことではないだろうかと語った。が，すぐさま TA 君は中国語ができたってそれは本当に役に立つのか，どこでどのように役に立つのかと問い返し，筆者は答えに窮してしまった。しばらく唸った後に，少なくとも『時光』でこれから皆で挑戦することには TA 君の力は必要だと説明するが，TA 君は黙ったままであった。日曜日の昼間に一緒に勉強をしたが，その日の夕方からの『時光』には参加せず，自宅で引き続き勉強をしていると言っていた。

さて，この日の『時光』の取り組みは，この場の一部の時間を利用して Learning-shop として取り組んでいく際のルールについて筆者から説明しメンバー間でその理解を作っておくことと，映画製作について今後の話し合いの土台作りを予定していた。この日は TS 君が急遽アルバイトが入ったこともあり，時間設定が直前になって変更されたため，18:00 から集合し始め，全員が揃うであろう 19:00 から 20:30 を Learning-shop として設定していた。

表 6 FN051127：一日の流れ

時間	No.	エピソード
16:30～	1	M 団地第 3 集会所へ移動する
18:06～	2	TS 君，中国語検定のアルバイトの様子を語る
18:20～	3	TS 君，弾き語りを始める
18:31～	4	HI さんが到着し，杉山のギターレッスンも行う
19:04～	5	KH さんが合流し，杉山から Learning-shop の説明を始める

19:33～	6	杉山, 個人的な思いを語ったことから,「勉強」に話題が移る
19:50～	7	杉山, 今後の体制について確認していく
20:10～	8	助成金の申請と活動の内容について話し合う
20:35～	9	後片付けをしながら忘年会について喋り, 集会所を退出する

筆者と TS 君は 18:00 過ぎに集会所で合流し, この日 TS 君が引き受けたという中国語検定の試験官の話を聞いていた。18:30 には HI さんが合流し, 杉山のギターレッスンをしたり, 各々弾き語りをしたりして過ごしていた。19:00 頃には KH さんも合流し, そろったところで Learning-shop を開始した。

筆者は Learning-shop について, 予め用意していた簡単なハンドアウトをメンバーに手渡し, それに沿って, KODOMO-Project や大学の研究室との関係などを説明していった。そして, 研究の場であると同時に社会的な実践の場として組織していくことに理解と協力をいただきたいということを伝えていった。説明を終えると, 筆者の用意したハンドアウトや説明の表現について話し合いになった。

FN051127-N0.5 より----------

HI さん,「表現というより, 創造活動でいいじゃないすか」と指摘する。すると TS 君,「表現というのは創造でいいんじゃない?…表現というのは, 創造から生まれる。ということは, 創造がなきゃ表現はできない」と言う。KH さん,「逆はないかな, 創造からまた表現が生まれるみたいな」と TS 君に向かって話すと, TS 君,「表現しながら, また新しいことを築く。そう, 両立しなきゃ」と説明し,「食べながら飲む, 飲みながら食べるみたいな」と言って笑いを誘うと, 杉山と KH さん, つられて笑う。杉山,「表現しながら創造し, 創造しながら表現する?」と TS 君に向かって尋ねると,「そうだね, 混合物だから」と答える。

杉山, アイデンティティという言葉について,「ここに集る俺らって何者か」という感覚について語るのは難しいと思わないかと話題をふると, それを聞いていた TS 君,「難しい, 俺, 言えないもん。友達ちがうか, うん…, 何だろな」と納得するように, 何か確認するようにつぶやく。しばらく言葉を探すように宙を見ていた TS 君,「じゃぁ, 俺らってどんなグループなのか説明して」と杉山に尋ねてくる。杉山, 笑いながら何だろうなと考え込む。HI さんが「家族じゃない?ファミリー…, この集会所が家で…」と語る。TS 君, うんうんと細かく頷いて杉山に視線を送ってくる。

また, KH さんは「高校生と大学生の協働による表現活動」というハンドアウトのフレーズに目が留

まったらしく, 突然 TS 君にどこの大学に行きたいのかと尋ねたことをきっかけに,「勉強」についてメンバーが話し合い,「人生」についての話し合いへと膨らんでいった。

FN051127-N0.5 より----------

KH さん，TS 君はどこの大学に行きたいのかと尋ねると，TS 君,「おすすめは V 大学」と言って笑う。KH さん，にこりと笑いながら,「TS は HI さんになっちゃだめだよぉ～，もっと大物になってよ」と口にすると，HI さん,「V(大学)は勉強しなくても行けるからね」と続ける。TS 君，声を出して笑い，声のトーンを戻して後ろに姿勢を崩して「俺，最近勉強好きになろうと思ったんだけどね…，こないだ(某市民センターでの)勉強が楽しかった」と優しげな表情で話す。KH さん，真顔になって「楽しかったんだ」とつぶやき，お菓子を口に運ぶ。杉山，どのようなところが楽しかったのかと尋ねると，TS 君,「やっぱね…おっ，こんぐらいやれば余裕で覚えられるんだ」と言ってにこりと笑ってメンバーを見回す。KH さん，頷きながら「すごいね，潜在能力が」と言いかけ，HI さん,「うん，そうだね…，すごいね」とかみしめるように続く。杉山,「なかなかそういう風に感じることってないよな」と KH さんに話しかける。

HI さん，低めの声で,「でもやっぱ勉強しなくて済むならその方がいいでしょ」と TS 君に向かって問いかけるが，TS 君が静止していたので，杉山,「どう？俺も高校時代は勉強しなくて済むなら部活だけやっていたいと思ってたことはあったな」とつぶやく。KH さん,「ま，でも，部活やるってのも，ある意味勉強みたいな，探求みたいなもんですよね。勝海舟だってやっていたのは武術だけだったし」と杉山に向かってコメントする。杉山,「そういう風に勉強の意味を変えていいんだったらね，いろいろあるけどね…」と答える。HI さん,「受験勉強は，無駄なことだから」と口にすると，TS 君が驚いた表情で「無駄なの？」と HI さんに問いかける。HI さん，その TS 君の表情を確認して間を置いて,「うん，人生のためには勉強のやっている内容に意味はない。やるってことには意味あるかもしれないけど」と説明する。

TS 君,「こんな大事な時間をバイトにあてたくないなって。大事な時期をバイトで終わらせたくないなって」とつぶやく。HI さん,「あ，そう？バイトもいいけどなぁ」と TS 君を見て目を丸くして口にするが，杉山，ではその大事な時期に何をしていくのかと TS 君に向かって尋ねると，HI さんが「いろんな出会い」と答える。TS 君,「いろんなって，一つしかねぇだろ～」と言って声をあげて笑う。杉山，再び TS 君にどう大事な時期なのかと尋ねると，TS 君，杉山の顔を見据えながら「人生の真っ最中だよ，季節で言うと…，春」と最後は宙を見上げる。杉山，俺はもう秋だなぁと言って笑う。HI さん，いやそれはないだろうと言って初夏ぐらいではないのかと杉山に聞き返すと，TS 君もその後に「今ちょうど暑い，俺が今ちょうど花が咲く時期で…」と続ける。HI さん，自分はもう冬を終え，これから雪解けし，花が咲き和らいで

いくのだと笑いながら説明していく。KH さん，笑って「どう咲くんだよ」とつぶやく。杉山，集会所の取り組みは，これから夏を皆で作っていけるようにしたいなと思うと話し，そして，そのような取り組みがそれぞれにとって大切な時間になってほしいと願いを語る。

杉山，そのようなことで Learning-shop を始めていくという承認をとりたいのだがと言ってメンバーの顔をみまわすと，KH さん，「やってみましょ…，っていうかその話ってもう何回かしてますよね」と言い，HI さん，「やりましょ」と続く。TS 君，親指を立てたまま胸を張って杉山に何度か頷いて見せる。

それから，今後の体制や終了時刻･終了後のルール，Learning-shop として設定する時間帯の決定，Learning-shop『時光』として取り組んでいく活動内容についてメンバー間で意見を交換していった。1 月以降は金曜日の放課後に時間設定を戻すこと，終了後のルール，新たな Learning-shop『時光』用の掲示板と参加メンバーによるメーリングリストを開設することなども決定された。また，HI さんや TS 君からの提案で，1 ヶ月に一度，週末の昼間の時間帯に集会所の予約をとり，これまで出会ってきた後輩や小さな子どもたちを呼んで一緒に過ごせる企画を立てる，そのように交流の輪を広げ深めていくような機会を作っていきたいという強い提案があった。他のメンバーの新規参加についても，KH さんから「増えても，高校生主体っていうのがずれなければいいですよね」という指摘のもと，メンバー間で合意を作っていった。

その後，次週以降の具体的な予定や『時光忘年会』の計画について話し合っていたが，終了時刻が近づいていたこともあり，話し合いの続きは次週に行うことにして解散となった。

3.5. 12 月 4 日(日曜日)

この日は，研究室で「具体的に動き始めることを意識してみてはどうか」とアドバイスを得ていたこと，そして偶然にも筆者の知人の大学生から『時光』サイトの高校生に会って交流してみたいという声が寄せられていたこともあり，筆者は実質的な展開を進めていくことを意識して臨んだ。筆者は，映画製作という長期的な目標を立てていくことだけでなく，それに向かいながらも様々な出会いや資源をもたらす短期的な歯車が必要だと考えていた。

表 7　FN051204：一日の流れ

時間	No.	エピソード
12:04～	1	M 団地第 3 集会所へ移動する
13:05～	2	M 団地第 3 集会所に到着する

13:08～	3	メンバーで生餃子を茹で, 食事の準備をする
	4	食事しながら, 携帯ムービー撮影＆PC でこれまでの映像･画像鑑賞
14:07～	5	Learning-shop の始まり:TS 君が問いかけ, 杉山が提案し始める
	6	大学生との交流企画を発案する
	7	発表のスライド作り―表紙
	8	自分(たち)の歴史を語るスライド作り―「出会い」について語る
	9	自分(たち)の歴史を語るスライド作り―自分の歴史
	10	自分(たち)の歴史を語るスライド作り―スライドショーを見る
15:53～	11	休憩
	12	案内チラシを作成する
16:35～	13	帰り道　TA 君と地下鉄で一緒に帰る

KH さんと HI さんは都合が悪く参加できないと事前に連絡を受けていたので, この日の参加メンバーは, TS 君･TA 君･筆者の 3 名であった。まず, Learning-shop は 14:00 から開始だったので, その前に 3 人で TS 君の祖母が作ってくれた生餃子を集会所で調理し, 昼食をとった。筆者は, ちょうどこの週末をはさんでテスト期間に入っている TA 君が参加していることに驚いていたので, 台所で調理しながらテストについて話題をふってみた。すると, TA 君の表情や言動からは, 何とかテストが乗り切れそうな手応えを感じている様子がうかがわれた。

FN051204-N0.3 より----------

そこ(台所)で 3 人で湯が沸くまで立ち話を続ける。杉山，TA 君に昨日の定期テストはどうだったかと尋ねると，国語は「大丈夫」だったらしいが，自信もあり比較的得意だと思っていた数学が「やばかった」と手応えを語る。TA 君，この週末の休日をはさみ，月曜日，火曜日と定期テストが続くが，もう少し頑張れば乗り切れる，早く終わってほしいよと笑いながら話を続ける。TS 君は，集会室に生餃子を取りに行くと言って集会室に戻っていく。TA 君，留年がかかっている世界史のテストは月曜日なのだと杉山に説明。準備の勉強は進んでいるか，そちらの調子はどうかと尋ねると，TA 君，まぁまぁ進んでいる，「徹夜」で頑張ると言い，徹夜の是非やテスト前の勉強の方法を杉山に尋ねてくる。杉山，自分の経験を TA 君に語りながら，簡単な一問一答(「例：ドイツで宗教改革を起こしたのは？―ルター」)を TA 君としながら立ち話を続ける。

その後, 餃子を 3 人で食べながら, 筆者は PC でこれまでのボランティア日本語教室, 非公式サイト, そして『時光』での画像や映像を流し, それを見ながら 3 人で語り合った。

FN051204-N0.4 より----------

食べながら，杉山，PC のディスプレイを 3 人の方に向け，これまでの取り組みの映像や画像のスライドショーを流す。TA 君，「これ何？何？」と映像や画像が変わるたびに何度もさかんに尋ねてくる。今春の SKNC の「お楽しみ会」の映像から，最近の「時光」の画像へと時系列で順番に見ていく中で，2 人は互いに「めっちゃ変わったよな」とコメントし合っている。杉山，何が変わったのかと尋ねると，2 人は「んー，髪型とか？雰囲気かな？」，「あと，ギターはかなりうまくなったしょ」と確認しあうように答える。その後の集会所での取り組み(非公式サイト期)の画像などを見て，TS 君，「あぁ～，俺ら，いろいろやってたもんね，懐かしいなぁ～」とつぶやく。TA 君，自分が参加していなかった時期もあったこともあり，その時期にどのようなことをしていたのかを聞き，杉山，主にキャンプの計画と実施の前半の取り組みについて説明する。TS 君，杉山の話を途中で補足する。「時光」期になると，ミニライブの様子とそれを撮影したビデオカメラの映像を皆で囲んで批評している様子，映画製作について話し合っている様子などの画像が流れ，自分たちの存在を画面に発見し確認しては，談笑が続いていく。TS 君，「俺ら，いろんなことやるようになってきたからね，忙しいよなぁ」と嬉しそうに口にする。TA 君も「先生，俺らすげぇな，すごくない？」と餃子を食べながら嬉しそうに話してくる。3 人とも，半分ほど食べたあたりで箸を置き，おなかいっぱいだと口々に言う。

食事を終え，TS 君が「さて，今日やることは？」とはりきった表情で筆者に向かって尋ねてきたのを皮切りに，14:00 からこの日の Learning-shop が開始された。そこで筆者は，これから皆で映画を製作するという長期の目標はできたところで，と前置きした上で提案を説明し始めた。

FN051204-N0.6----------

杉山，知り合いの大学生が「時光」の活動，「時光」に参加している高校生に興味を持っていて，交流したいという声があることを 2 人に話す。その大学生は，まず市内の大学で活動している国際交流サークルや留学生によるサークルが連携して設立された大学間ネットワークの「S」で活躍している。大学にいる日本人の大学生と留学生の国際交流や情報共有を企画する学生団体で，冊子を作ったりラジオを放送したりしていると紹介。団体名を紙に漢字で書いたところで，2 人とも「あぁ～」と頷く。TS 君，杉山の説明に相づちを入れながら頷いて聞き，「なるほどね，大学生のグループ，ラジオすげぇ…，俺らもできるかな」と言う。TA 君は杉山と TS 君の顔を交互に見ながら，一見無表情で話を聞く側にまわっている。杉山，続いて Q 大学の YOSAKOI ソーラン祭りのサークル「E」を紹介。その代表だった大学生と知り合いで

「時光」の高校生に会ってみたいという話を伝える。TS 君，「E」と聞いたところで目の色が変わり，「知ってる知ってる，まじで！？すっげぇ～」と笑顔になってそれまでより声のトーンを高くして驚きを表す。杉山，「E」を知っているのかと尋ねると，TS 君，笑顔で「当たり前でしょ！超有名」と答える。TA 君は片膝を立てたまま，黙って杉山や TS 君の顔を交互に見る状態を続けていたが，「踊りのやつでしょ？」とそれまでと変わらない声のトーンで言う。さらに杉山，縁で自主映画をとった学生がいることを紹介すると，TS 君，それならばその人にも来てもらって映画作りの話を聞くとよいのではないかと提案する。杉山，そうそうと言いながら頷く。TA 君の方を見たときに目が合い，TA 君もうんうんうんと小刻みに首を縦に振って笑顔になる。

少し間を置いていると，TS 君が先取って「そして？まだいる？…そういえば IN ちゃんは[3]？」と逆に尋ねてくる。杉山，「そうそう，IN さんね。彼はピアノやってるでしょう，Q 大のジャズ研っていうサークルでやってるんだけど…」と話し始め，やはり IN さんとその友人が「時光」の高校生と会って交流したいという話を伝える。TS 君，「セッションもできるかもしんないし，映画の音楽とか教えてもらえるんじゃない？」。TS 君，杉山に向かって応答をしていくが，TA 君は片膝を立てたまま，しかし杉山と TS 君の様子をうかがうように視線を往復させながら，何も口にせず，黙って話を聞き続けている。

TS 君，大学生たちはいつ，何人くらい来るのかを杉山に尋ねてくる。杉山，そのような交流の場を一度企画してみてはどうかと提案につなげる。TS 君，「それはいいね」と言って，そのような場で自分が「時光」の取り組みを紹介していくと自ら名乗り出る。杉山，TS 君の意見に同意して TA 君の方に向き，「TA はどう思う？」と尋ねると，TA 君は少し照れたようにはにかんで，「よぉーし，やるかっ！」と膝を崩し，腕を組みながら，それまでの沈黙を破るかのような大きな声をはりあげる。TS 君，その TA 君の様子を見てにやっと笑いながら，「っしゃ，じゃ，いつにする？」と話し合いを進め始める。

杉山，窓側のカレンダーを見ながら，12 月の残りの取り組みは忘年会とその準備になることから 1 月に入ってからがよいのではないかと話す。TS 君，カレンダーを見ていた視線を杉山に向き直し，2 月には「中国のお正月」のお祝いの準備もあること，そして 1 月は冬休み中で動きやすいことからやはり 1 月がよいと加える。TA 君，その話を聞き，笑顔で「っしゃ！オッケイ！」と威勢のよい声で相づちを入れる。

---

[3] IN さんは，非公式サイト時にこの集まりに参加したことのある筆者の友人で，大学でジャズ研究会に所属している。それで TS 君や SS 君，HI さんと面識があり，その後も TS 君は個別に連絡を取り合っているようで，IN さんからもジャズ研の友人と Learning-shop に訪れてみたいという要望が出ている。特に TS 君や SS 君は，これまでも IN さんに楽器の演奏のことなどを話したいとたびたび口にしてきていた。

続いて, その交流企画で自分たちは何をしていくのかという話題に移っていった。TS 君が「まずは自己紹介が先じゃん？初めて会う人もいるんでしょ？」と言い, 筆者は早速準備をしようと誘うが, 突然 TS 君が面倒くさそうな様子を見せ始めた。そこで筆者は, 自分をどのような人間だと語ったらよいかと問いかけ, PC の PowerPoint のスライド作りを介しながら TS 君と考え始めた。TS 君は徐々に作業にのめり込んでいった。他方, TA 君は, 何とかその構成を考えてメモを作ろうと試みている様子を見せるが, なかなかうまくいかない様子だった。TA 君は, 携帯電話でメールのやりとりなどもはさみながら, 何とかメモを書いてみようとする姿勢は崩さなかった。スライドに載せる画像の選定や配置などは, 3 人で一緒に作業を進め, 非常に盛り上がりを見せていった。

FN051204-N0.7 より----------

杉山，PowerPoint というソフトは，何かを発表する，プレゼンテーションするときに使うもので，これを壁に映し出してみんなに見せながら話すと聞いている人も分かりやすいし，話す方も話しやすくなるのだと説明する。すると TS 君，「あぁ！お楽しみ会のときみたいにね」と思い出したように言う。杉山，そうだと頷き，自分が打てる角度に PC の向きをずらす。見えにくくなってしまったからか，TA 君が立って TS 君の横に移動し，体育座りで座り直し再びディスプレイを見ている。TS 君，ギターを抱え，ディプレイを見ながらワンフレーズずつ，断片的に弦を弾く。

(中略)杉山，まず発表のタイトルをどうするか尋ねる。TS 君，ディスプレイを見たまま止まっている。杉山，「タイトルは…」と何度か繰り返すが TS 君が止まっている様子を見て，「サブタイトルは…」と話を変え，「プロジェクトの名前を入れよう，ラーニングショップ…」と言ってキーを叩いて入力すると，TS 君がそのディスプレイを見ながら「時光」と先取って口にする。TA 君，ディスプレイと TS 君の様子を交互にじっと見ている。TS 君もいつの間にかギターを床に置いて，机の上にひじをついて PC の方に前のめりになって，杉山と PC を交互に見ながら杉山とやりとりをしている。

【14:27】

TS 君，ふぅーっと大きく息を吐き，自分で納得したかのようにうん，と頷いて「時代を動かす高校生，うん」と自分自身にささやくように口にする。杉山，それに応答せずにまずはスライドにそのタイトルを打ち込んでいく。杉山，「ＯＫ？」と聞くと，TS 君，「ＯＫ」とすぐに返す。杉山，TA 君の方に視線を向け，同じように「ＯＫ？」と言うと，TA 君，かみしめるように何度か頷いて笑顔で「いいんじゃない」と語尾を上げながら答える。

杉山，写真を入れてはどうか，そのために白い背景のデザインにしてはどうかと提案する。

TS 君，再び背景を見ながらあぁでもないこうでもないと吟味し始める。すると突然，TA 君の携帯電話が振動する。TA 君，すぐに携帯電話を手にとり開ける。TS 君，「ちょっ，うるせぇなぁ」と言って TA 君の方を見るが，TA 君は TS 君に視線を向けないまま棚側に携帯電話を手にして移動して，横になってメールを打ち始める。TS 君，杉山に「これ，これはだめ。これ以外にないの？…どんな？」とスライド選び，そして写真の画像選びを進めていく。その選定が終わり，杉山，画面をスライドに戻して画像をペーストし，日付や発表者，場所を口に出しながら打ち込んでいく。途中，TS 君がディスプレイを見ながら言葉を先取っていき，それらが入力し終わると，TS 君，ディスプレイを見て納得したように「うん，いいね」と口にする。TA 君は横になって携帯のメールのやりとりを続けているが，TS 君が何か口にするたびにこちらに視線を向けてくる。

杉山，フォントや画像のサイズを微調整を始めると，TS 君，小さな声で「大きくすると…，いやもっとだな…，あぁ，いいね…，おぉ，きたぁー」とディスプレイを見ながら杉山に指示を出していく。TS 君，少しずつ杉山の隣に近づいてきて，ぴったりくっついて作業を指示していく。TA 君，携帯電話を閉じて起き上がり，杉山の後ろに立ってディスプレイをのぞきこんでいるが，すぐに携帯がメール受信で振動し，その度に机から離れて横になってメールを返すといったように行ったりきたりし始める。いったん一息つくように姿勢を後方に倒し，TS 君，「もう 2 時半かよ」と時計を見てつぶやく。スライドの表紙ができあがり，杉山，TS 君と TA 君の顔を見ると，2 人とも「いいねぇー」と口をそろえて言う。

FN051204-N0.8 より----------

TS 君，順に紹介の項目を杉山に伝えていく。名前，所属高校と学年，部活動，関心，趣味。TA 君もその様子を後ろから見守りながら，例えば「関心」の項目のところで「俺は格闘技じゃん」と口にして確認していく。TS 君，関心の部分で，「音楽＆映画鑑賞って感じで。あと出会い…，出会いだね」と説明する。杉山，「出会い，出会い…，なるほどね。ここ説明必要じゃない？何との出会い？」と尋ねると，TS 君，間髪入れずに「人，事，物」と答える。杉山，「どういうこと？」と尋ねるが，TS 君，「大丈夫だよ，説明できっから」と答える。杉山，「えぇ？説明できるの？今説明できなきゃ，本番でもできないかもよ」と言うと，TS 君，後ろに姿勢を崩してはにかんだような表情で「あ，そっか，まず人…」と説明を始める。TS 君，途中で間を置きながら「人に出会うことにより，たくさんの事，たくさんの物に出会うことになるし…，そのうちに，違う人からいいところや悪いところを学び…，自分の身につけることができる。そのうちに，また自分の悪いところにも気づき，直していくこともありえる」。TA 君も白紙に少しずつ中国語で書き込みをしている。TA 君，「っしゃー」と小さく息を吐く。TS 君，説明を続ける。杉山，PC のキーを打つ手を止め，TS 君の話に聞き入りながらメモをとる。TS 君，「事に出会うと，そのうちに，人間の性格や物の出来方とか，いろいろ理解していける

と。物に出会うと，物に出会うと，物から人のことを理解したり，コミュニケーションのとり方とかも，うまくなると思う」。杉山，うんうんと頷きながら話に耳を傾け，「例えば，TS にとって今まで大事な出会いと…」と言いかけたところで TS 君が説明を続ける。TS 君，「まず，人といったら，ボランティアの方々。日本語も徐々と成長し，徐々に成長し，また自分にとってやることたくさんあるなぁ～と…，事っていうのは，楽器演奏？日本語の勉強でいいよね。で，物はギター。で，いいよね？」と説明する。杉山，「うん，なるほど」。TS 君，「で，次に部活動，はこの集会所。皆で話し合い…，たくさんの物事を作っていく。まずこの集会所の場所を借りて，みんなで集って，話し合い，理解しあい，成長しあい，しあっていく中で，またいろんなことに出会う」。TA 君，少しずつ白紙に書き込んでいたが手を止め，いったん間を置いて，それまで書いていた 4～5 行の中国語の文を一気に全て消してしまう。TS 君，ギターをゆっくり，ワンフレーズずつ確かめるように弾きながら，自分の書いたメモを見て説明を続ける。TA 君，白紙を持って移動し，ペンを片手に横になる。自分の目の前に白紙を置いて，ペンを構えて静止する。(中略)杉山，横になって静止している TA 君に「TA はどうだい？これやってみないかい？」と尋ねると，顔を上げ「今考えてるからちょっと待って，むずいな」と笑顔で答える。

【14:51】

杉山，スライドの書き込みの中で大事なキーワードについて TS 君に尋ねると，TS 君，いちどディスプレイを見つめながら間を置いて，「そうだね…，成長だね」と答える。杉山，スライド上のその言葉をハイライト化する。杉山，頷きながら「成長」という言葉がどうして大事だと思うのかを TS 君に尋ねる。TS 君，成長「しあう」ところが大事だと思う，俺らは「仲間」だから「みんなで」何かに取り組んでいく，そして「みんなで」成長しあっていくことが大事なのではないかと，ゆっくり言葉を選びながら杉山に説明していく。

FN051204-N0.9 より----------

TS 君，「次は…(自分のメモを見直しながら)，今までの自分か。時光の歴史は？それはあとにするか，自分の歴史だね」とつぶやいて，座り直す。杉山，いったん新しいスライドを出し，TS 君の話を受けながらスライドに項目を打ち込んでいく。TS 君，ディスプレイを見ながら「小学は 1998 年，このあと(小学時代については)いろいろ話すから…，中学は，1 回目の入学は…，1998 年でいいんだな」と言って，ディスプレイを覗き込みながら説明を繰り返して入力をサポートする。「中学 3 年で中退，中退，かっこ中 3。で，来日。また，あと M 中学校入学。それで，2005 年，Y 高校を受検し，合格」とディスプレイを見ながら入力の速さに合わせて淡々と説明していく。TS 君，自らの学歴についての説明を続け，現在に至ってからしばらく間があく。

杉山，「昔の写真でも入れてみようか」と提案すると，TS 君，いくつか比べてみるかと言っ

て PC の方へ身を乗り出す。杉山，スキャナーで取り込んである写真の画像を開いて一覧を TS 君に見せ，めぼしいものを探しながらファイルをひらいて TS 君と見ていく。TA 君，起き上がって机の側に移動し，笑顔で TS 君に中国語で一声かけ，にこにこしながら PC に向かい一緒に画像を見始める。画像を見ながら TA 君，TS 君に中国語で声をかけて談笑している。古い時代から画像を開けていく，「ちっちぇーなぁ」，「今と全然違うよな」とコメントしながら和やかな雰囲気で画像を見ていく。TS 君，途中でパッドに手を置き「ちょっ，やらして」と言って自分で操作しながら画像を探して開けていく。TS 君，それぞれの時期の自分の写真を見つけてはファイルを開きながら，「これ(プレゼン)15 分で足りるかな…，あきられちゃったりしてね」と笑いながら口にする。TA 君と TS 君，交互に PC を操作して画像を探していく。ある程度探したところで杉山がそれをスライドにペーストして位置調整を 2 人に確認しながら作業を進めていく。そのうちに TS 君，スライドの構成，画像の配置などについて杉山に指示を出していく。ディスプレイを見ながら，コメントをつけながら作品を一緒に作っていく。画像の配置が決まるたびに，杉山の後ろにぴったり立ってディスプレイをのぞきこんでいた TA 君，「おぉー，いいんじゃない」と口にする。TS 君はギターを置き，PC の側で杉山にぴったりくっついて作業を続けている。ときおり笑いが起こり，画像についての会話(いつの画像なのか，一緒に写っているのは誰なのか，昔はどのような髪型でどのくらいの身長だったのか)も弾み，構成についての話し合いも活発になり，楽しい雰囲気で作業が続いていく。TS 君の方からもどのようにスライドを作っていくか，どの画像をどのように配置していくかなど提案やコメントが増えてきて，話し合いの声のトーンが上がり盛り上がってくる。また，スライド上のオブジェクトにアニメーションを加え，これまでのスライドの編集を行ってみる。TS 君，この編集作業は楽しんで取り組んでいる様子で，大学生が見ても笑いがおこるようなおもしろいスライドになるようにと，自らも楽しんでいる様子。

【15:15】

それぞれの時期に対応する TS 君の画像の配置がいったん固定されたところで，それまでの発表内容を確認し，スライドショーをかけてみる。その出来に，TS 君と TA 君，非常に大きな声で「おぉ，いいねいいね！来たね！」と笑いながら歓声をあげる。杉山，「ここで音楽を入れてみようか」と提案する。TS 君，19 の「友だちの唄」を弾き語り始め，それを録音する。

FN051204-N0.10 より----------

TS 君，「さ，歴史終わったね」と杉山に向かって言う。杉山，「でさ，歴史で，これは聞いてほしいっていうかさ。何かこう…，歴史の中で心に残っていることでもいいし，嬉しかったこと，楽しかったこと，苦しかったこと，辛かったこと…」と言いかけたところで。TS 君，「じゃ，まず…，辛かったことからいくか。辛かったことねぇー」と言って宙を見上げ間をあけて，「まず授業だな…」と話し始めるが，それを聞いて杉山が打ち始めているスライドを見つめながら TS 君が構成について指示を出し始める。

(中略)杉山，今日作ったスライドを最初から見ていこうと提案し，3 人並んで座り，PC のディスプレイを見る。TS 君，スライドが切り替わるたびに「おぉ」と小さな声を漏らす。自分の歴史の部分で出てきた画像を指差し，TS 君，「これ，お前に出会ったときの写真だぞ」と TA 君に説明する。TA 君，ディスプレイの方にやや前かがみになり，「どれ？いつ？どこで？」と尋ねる。杉山，M 森林公園の炊事遠足ではないかと答えると，TA 君，「違うべ，初めてのときは進路説明会のとき…」と続ける。TS 君，「変わんねーべ，その頃のことだ」と添える。杉山，クリックを続けスライドを最後まで確認して，TS 君，「あとは音楽を入れるのか」とつぶやく。TS 君，「よし，ちょっと休憩するか。お茶入れよう」と言うと，杉山と TA 君，うんと頷く。

---

3 人は休憩し，筆者の呼びかけで案内チラシを作り始めたが，すぐに終了時刻を迎えたため，この日の取り組みを終えて後片付けを始めた。なお，案内チラシを作る際に，今回のように大学生や他のゲストを呼び，自分たちの取り組みや作品を見てもらって話し合わせてもらう機会の名前をつけた。その名前の考案者は TS 君である。筆者がこの集まりについて一度説明を試みたあと，それを聞いて TS 君は，「それなら中国語の方がいいね，まず何だろう？…，意味を教えてくれれば…。公開トーク？じゃ，公開『まんだん』，『まんだん』はさんずいに…そそ。読み方は…ゴンカイ…」と提案していった。

また，この日の帰りは TA 君と一緒であったが，そこでテストと勉強のことを話した。地下鉄の車中で，TA 君は今回の定期テストが何とかなりそうだと話し始めた。「集会所で休めたしテンションあがったから徹夜で勉強を頑張る」と言い，筆者はあらためて今日は集会所で勉強しなくてよかったのかと尋ねると，TA 君から実は勉強道具を持ってきていたのだという話を耳にして驚いた。しかし，すぐに TA 君は集会所では皆でいろいろやる方が楽しいし，勉強は自分で何とかできるということを筆者に話してきた。筆者は，今日のタイミングはメンバーで「テスト」や「勉強」について語り合う 1 つのチャンスであったのかもしれないと思い始めていたが，TA 君は，あとは覚えるだけなので一人で何とかできると自信ありげな表情で言って降車していった。筆者は，TA 君が勉強道具を持ってきていたことを聞き，何かいくつかの異なる不安を感じ始めていた。

3.6. 12 月 11 日(日曜日)と 12 月 18 日(日曜日／時光忘年会)

筆者は，12 月 11 日は再び法事で旭川に行かねばならず，『時光』に参加することができなかった。この日は HI さん，TS 君，そしてテストを終えた TA 君が集っていた。HI さんからの報告と様子を紹介する。

まず，初めに HI さんは TS 君とギターを弾きながら過ごしていると，TA 君が到着したという。しかし，TA 君から「びっくりするような話」を告白されたという。TA 君は，結果的にそれまでの努力がうまく定期テストの結果に反映されなかったのだが，学校でのあるルールを破ってしまったとのことだった。HI さんも，やってはいけないことはやってはいけないと TA 君を諭したあとで，非常に心配して話を聞いていったのだが，TA 君はそれほどまいっている状態ではなく，反省しているのかいないのかよく分からない様子だった語っていた。しかし，TA 君は，今後どんなことがあっても絶対に問題を起こすようなことをしてはならないと元気のない様子で語る姿も見せていたとのことだった。

この日は，弾き語りの後，翌週の「時光忘年会」の準備を行ったとのことだった。準備としては，ミニライブの曲選定とリハーサル，小さな子どもも交えてのゲームと交流などプログラムの考案，当日の役割分担と作業の確認，現時点での参加者がどれだけいて他にどのようなメンバーにどのように声をかけていくのかといった打ち合わせに取り組んだということだった。

さて，筆者には，本人からではなく，HI さんや YW さんから TA 君の状況が伝えられた。HI さんが言うには，「せっかく世界史教えてもらって勉強につきあってくれた杉山さんに直接言いづらくって辛そうな空気はあったみたいですよ」とのことだった。筆者は，それ以前にテストはうまくいったかと TA 君に送ったメールの返信がなかったことを思い出し心配していたが，事情を聞いた後にもう一度メールをしたもののやはり連絡がとれないままであった。

12 月 18 日には，ささやかながら「時光忘年会」を集会所で開いた。この日は午後の時間帯で集会所を予約し，当日は HI さんと TS 君，筆者で，買出しや調理準備，小さな子どもの引率などの分担にしたがって午前中から動き出した。SI さんや YW さんといったボランティア団体の方々や，1 名であったが小学生が訪れ，定期的に参加をしてきた SS 君や KH さんも参加することができた。今回，HH さんはスケジュールが折り合わなかったが，冬休みからは参加してみたいと返答が来ていた。TA 君は，参加するが少し遅れてくるとのことだった。昼食に鍋料理を作って食べたのだが，SI さんや YW さんからの差し入れもあり，予想以上に華やかな食事となった。また，食事の後は，ゲームをして遊び，TS 君，HI さんによるミニライブも行われた。16 時をまわったところで後片付けを開始し，16 時半に集会所を退出した。

忘年会に遅れてきた TA 君は，一見ふだん通りの様子で仲間たちと楽しそうに話したり遊んだりしていて，また面識のあった小学生の面倒をみている場面も見られた。筆者は，TA 君の様子が気になり 2 人になったときに声をかけた。すると TA 君は，たしかに HI さんが「反省しているかどうか分からない」言っていたように，それほど暗く落ち込んでいる表情も見せず，今度少しでも何か問題を起こすと卒業できなくなると少しふざけた調子の声と笑顔で語っていた。そして，TA 君の方からアルバイトを辛くてやめたのだと話題を変えてきたこともあり，筆者もこの件に関しては TA 君と語り合う次の機会を待つことにし，ほどなく一緒に集会室に戻っていった。

4. 総括と議論

10 月末から開始した本サイトの Learning-shop であったが，実質的な展開の道筋をつけるという局面に至るまでに 2 ヶ月を費やした。そのため，研究として何を問うていくことができるのか，本サイトに固有の文脈や「学び」の問題についてどのようなことを語っていけるのか，まだまだはっきりと確定できる段階にないかもしれない。その上で，今回の報告書で本サイト開始期の動向を辿ってきたことを通して，今後それらを検討していく上で重要になるだろうポイントやアイディア，実践研究としての枠組みの構想，Kris や Olga たちの研究や実践との関連性などを整理し，1 月からの研究と実践への課題及び本サイトの Learning-shop の具体的な青写真について提示したい。

4.1. 今タームの記録の中で重要なポイントは何であったのか？

「映画製作」というテーマ

まず第1に，この開始期において自分たちの取り組みの具体的な目標として「映画製作」というアイディアが生まれ，それが浸透していった点が挙げられる。このテーマの発生は，一見，思いつきという偶然の産物であるかのようであった。ただし，10 月 30 日，このアイディアが生まれてからの話し合いの盛り上がりは，目をみはるものがあった。

興味深かった点は，「高校生の修学旅行」という設定をめぐる話し合いである。当初の「冬のソナタ」のパロディ版映画のアイディアについても，おもしろおかしいといった意味では話し合いは弾んでいた。しかし，TS 君が自分自身に近い登場人物設定でストーリーを語り始めてからは，その話し合いの盛り上がりの質は変化していったようである。合間にジョークを交えながらも，意見の相違があればそれをぶつけあっていく真剣さが現れていった。直感だが，なぜそのようなストーリー展開にしたいのか，なぜそのような人物設定にしたいのか，それらの真剣な話し合い中に，自分の込めた意味や価値を省みる機会が現れる予感がした。さらに，あくまでフィクションであるのだが，その映画をめぐる話し合いの中に，自分たちと等身大の人物や自分たちが向き合う現実世界を投影しながら議論していることが重要であると感じた。

また，特に TS 君は，中国の音楽や中国語を取り入れることへの積極的な姿勢やそれへのこだわりを持っている様子が何度も見られた。1 つの作品化の過程で，日本語と中国語という 2 つの言語的資源がどのように関係しあっていくのか，そこにどのような価値が見出されていくのかというところも，同様に興味深いところである。

今後，「高校生の修学旅行」という具体的な設定が維持されるかどうかは分からないが，自分たちの生活世界，自分たちの歴史や経験などをその設定に取り入れていく，自分たちの日常を映画という手段で表現しなおしていくという流れができると，実践としておもしろい展開が見られるのではないだろうか。また，その際には Learning-shop での「話し合い」場面という公的な場も重要になることは間違いなさそうで，そこでのやりとりが観察の 1 つの焦点となっていくだろう。表現活動と掲げているが，この「話し合い」という公的な場も 1 つの小さな表現の舞台であると考えていくべきだろうか。

学校での学業的達成

次に，学校での「勉強」についてである。事実としては，TA 君の学業成績は不振に陥り，進級(留年)の危機を迎えた。そして今回，定期テストに向けて準備の勉強に取り組んでいったが，その努力がうまく結果に反映されないという状況を経験するに至った。学業的達成の問題は，個々の高校生の生活の中で引き続き生じていくものである。例えば，大学進学を強く希望している TS 君も遠くない未来にこの問題に向き合っていくことになる。彼らは，中国帰国者である祖父母や父母の世代から新しい芽として大きな期待を背負っている。それをふと，彼らは口にすることがある。他方，彼らは家からほとんど出られない祖父母や，日本での生活や就業に苦労し続けている父母の姿も，口にすることがある。たしかに多くは語られないが，彼らが自分の将来を意識していないわけはないだろう。

このことは，『時光』サイトの Learning-shop を考えていく上で決して置き去りにしていくことのできない問題であるし，筆者たちのサイトの文脈においてはむしろそれに向き合っていかなくてはやはり真の意味での Learning-shop たりえないことを強く感じた。放課後に課外活動を自分たちで作っていくという点では，本サイトは学校とは異なる。しかし，学校の「勉強」に対して単に楽しい「遊び」の場であるにとどまるならば，対抗文化しか育たないだろうし，現実に目をつぶるだけの閉じられた避難所になるだけである。

そのような背景を持つ高校生たちにとって「しっかり考え，しっかり悩み抜く」こと，そのような場と機会を作っていくことこそ大切なのではないかというアドバイスをいただいていた。そのような場を具体的に目指していく時に，後に述べるように，これからの表現活動の中にこそ，彼らが惹かれ強く関心を寄せるポップカルチャーと彼らがじっくり考え悩みあいながら現実に向き合っていくこと，彼らの経験や歴史と彼らの将来とが交差する学びの空間が開ける可能性があるのではないかと考えている。

4.2. 研究としてどのような問題を立ち上げうるか？

これまで筆者は，マイノリティの子どもたち・青年たちの「学びと発達」の問題についての関心を持ってきた。

Olga(2003)たちが強調しているのは，そのような学びの問題を考える際に「時間」というパースペクティヴを重視することである。すなわち，子どもたちが新しい知識に出会い，それを構築していくために，彼らのもつ過去の経験を学びの資源として用いながら問題解決していくことの重要性を強調しているのである。この観点の土台には，Vygotsky が提起した概念である「最近接発達領域」のアイディアが貫かれている。

さらに，そのように学びを媒介するものは子どもたちの過去の歴史や経験に限定されない。LCM で構築されるものは，個人にとって新しいと同時に，子どもたちが生きるローカルな社会にとって新

しいものであることが目指されている。だからこそ，LCM という学びの場は閉じられた空間なのではなく，いくつかのコミュニティが重なりあう「機能システム」としての組織化を志向している。それによって，子どもたちの学びと発達を「最適化する」ために，多様な資源を提供しうる環境が目指されているのである。

また，Kris たちの「第 3 空間」の議論において重要であるのは，学びを生み出す相互行為は，2 つ異なる文化，言語，アイデンティティが交差していく中でその契機が生じていくのだという点である(Gutierrez, et al. 1995, 1999)。そのような空間においては，競合的なディスコースや立場こそが，葛藤や差異といったものを豊かな学びのゾーンへの変換へ導いていくものとなる。さらに重要であるのは，そのような過程で対立し競合する双方が変化を被り，参加者の役割や参与枠組み，分業の再組織化が進行し，新たな活動と結果を生み出すということである。Kris たちは，この学びの性質を「混種性」という概念でこれまで検討してきた。

これは筆者が強く共感し学ぶことの多かった側面をまとめてみただけであるが，このような理論的な議論をレンズに，本サイトのこれからの Learning-shop『時光』サイトの研究と実践について考えていくと，筆者としては「表現活動を通して学びを組織化していくことの意義」や，様々な文化やディスコースが交差することで学びの空間が生まれていくならば，その過程で「それらがどのように出会うときにどのような学びが生まれていくのか」といったことに検討の可能性を感じている。

また，同様に強く問題意識を感じているのは，Learning-shop であっても，LCM や Teatro であっても，そのような実践サイトが子どもたちの学びをどのように媒介していく場となっていくのかということである。特に TA 君の一件やアメリカ訪問でこの問題についての意識を深めるに至ったが，それは「子どもたちの学業的達成をどうするのか，あるいはどのように考えるのか」という問題でもある。単にこのような実践サイトが“オルタナティヴな”学びの文脈を作ると言うだけでは不十分なのであって，それは表面的な慰め合い以上の場にはならないのだと強く感じる。実践サイトは，子どもたちの生活世界の一部であり，言い換えると，子どもたちは多様なコミュニティとネットワークの中に生きていることは言うまでもない。同時に，学齢期の子どもたちの主導的活動が「学習」であると考えるならば，青年期の子どもたちにとって学校での「学習」の危機や挫折は，自分自身のあり方を左右する大きな要素でもあると言える。今後，考えてみたい問題として，この「時光」の Learning-shop の表現活動が，高校生たちと彼らの向き合う現実や世界をどのように媒介していくのか，そして両者の関係性をどのように変化させていきうるものなのかということも挙げられる。

抽象的なレベルではこのようなことを考えるに至っているが，最後に具体的な今後のプランについて提示する。

4.3. 研究と実践について今後の課題と具体的な青写真

研究の枠組みについては，フィールドに固有の文脈と問題を詰めながらもっと具体化していかなくてはならない。さて，1 月の Learning-shop『時光』サイトは，13 日の金曜日から再開される。場所

は今まで通り M 団地集会所, 時間は毎週金曜日の 17:00 から開室し, 18:00～20:00 の 2 時間で Learning-shop としての活動に取り組み, 20:30 には撤収, 解散というスケジュールになる。

3 学期(1 月～3 月期)の取り組み内容としては,「公開漫談」のように様々な人に自分たちの取り組みや作品を見てもらい, 交流していくような短期的(月に 1 回程度)な目標設定で, そのサイクルに沿って発表に向けて具体的な表現作品化を組織化していく。ショートフィルム(2～3 分程度)を作ったり, ライブをするなら演出を考え練習したり, 自分の歴史を語るならばプレゼンテーションの準備をしたり, 写真を撮ったりといったように作品化と話し合いを通常の活動で進めていく予定である。

期待としては, 4 月以降の映画製作につながる何らかの掘り下げて深められるテーマを共有する期間としたい。そのために, 上記のような「公開漫談」という新たな出会いの場で,「自分」や自分たちの「日常」を何者としてどのように語るのか作りながら話し合う, 話し合いながら作るといったように進めていき, 自分たちの「日常」の中からある素材とテーマ内容を見つけ出し, その問題空間を拡げ話し合いを膨らませる準備へとつなげていきたい。

また,『時光』の活動としては, メンバーから要望の声があった小さな子どもたちも含めての交流などについても計 1～2 回ほど実施していけるよう話し合って調整していく予定である。

活動中と活動後の参加者の安全を保障していくために, これまでルール整備や話し合いによるメンバー間の理解共有をはかってきたが, その遵守履行と 1 月にはボランティア団体保険及び(行事時には)行事保険への加入手続きを進める。また, 1 月以降の観察については, 参加者の理解と協力を維持できれば, これまでは断片的だったビデオカメラによる映像記録も進めていきたい。観察上, ビデオカメラは「話し合い場面の映像記録」のためと「高校生たちが映画製作やショートフィルム作成時に用いる道具」としてうまく兼用していけるような工夫が必要となる。

Vásquez, O. (2003) *La Clase Mágica: Imagining Optimal Possibilities in q Bilingual Communities of Learners.* Lawrence Erlbaum Associate.

Gutierrez, K., Baquedano-Lopez, P., & Tejeda, C. (1999) Rethinking Diversity: Hybiridity and Hybrid Language Practices in the Third Space. *Mind, Culture, and Activity,* 6(4), 286-303

Gutierrez, K., Rymes, B., & Larson, J. (1995) Script, Counterscript, and Underlife in the Classroom: James Brown vs. Brown v. Board of Education. *Harvard Educational Review,* 65(3), 445-471